



2019 年度

かながわ文化芸術振興計画 年次報告書（素案）

2020 年 9 月



目 次

I	かながわ文化芸術振興計画について	1
1	かながわ文化芸術振興計画とは	
2	かながわ文化芸術振興計画年次報告の位置付け	
3	重点施策の実施状況の概要	
II	重点施策の実施状況	
	重点施策 1 地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用	5
	重点施策 2 子どもや高齢者・障がい者など、あらゆる人の文化芸術活動の充実等	7
	重点施策 3 国際文化交流の充実	10
	重点施策 4 東京2020大会を契機とした施策	13
	重点施策 5 文化芸術の振興を推進するための環境整備	16
III	基本的な施策の実施状況	
1	県民の文化芸術活動の充実	19
2	文化資源を活用した地域づくりの推進	22
3	文化芸術の振興を図るための環境整備	24
IV	施策の実施状況一覧	26
V	進行管理のための参考指標	
	・ 県立文化施設利用者数	●
	・ 文化芸術の鑑賞・活動の重要性に関する意識、満足度	●
	・ 県立文化施設の利用率	●
	(県民ホール・KAAT神奈川芸術劇場・音楽堂・かながわアートホール・青少年センター)	
	・ 県立近代美術館の作品蒐集管理状況	●
	・ 過去1年間に美術鑑賞等の文化芸術の鑑賞・活動を行ったことのある人の割合	●
		●
	・ 県の総合計画「かながわグランドデザイン」における位置付け	●
VI	年次報告のまとめ（文化芸術振興審議会意見）	●

I かながわ文化芸術振興計画について

1 かながわ文化芸術振興計画とは

本県では、文化芸術振興基本法（現文化芸術基本法）の趣旨に則り、文化芸術の振興についての基本理念や施策の基本となる事項を明らかにした神奈川県文化芸術振興条例（以下「条例」という。）を2008（平成20）年7月に制定し、2019（平成31）年4月に改定しました。

また、同条例に基づき、文化芸術の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、文化芸術の振興に関する基本的な計画を定めることを目的として、かながわ文化芸術振興計画を2009（平成21）年3月に策定し、その後、2014（平成26）年3月及び2019（平成31）年3月に改定を行い、現行計画を策定しました。

この現行計画は、2019年度から2023年度までの5年間を計画期間としており、これまでの間の文化芸術を取り巻く状況の変化とこれまでの取組の実績と課題を踏まえ、今後取り組むべき「基本的な施策」及び「重点施策」を整理しました。

2 かながわ文化芸術振興計画年次報告の位置付け

県はかながわ文化芸術振興計画（以下「計画」という。）について、2009（平成21）年3月に策定後、2014（平成26）年3月に改定（以下「第2期計画」という。）し、2014（平成26）～2018（平成30）年度の5か年間に取り組む「重点施策」及び「基本的な施策」を掲げ、取組を進めました。

なお、現行の計画（計画期間：2019（令和元）年度～2023（令和5）年度。以下「第3期計画」という。）は、2019（平成31）年3月に改定を行っています。

この年次報告は、それぞれの施策に係る2019（令和元）年度の実施状況について県文化芸術振興審議会に報告し、御意見を踏まえまとめたものです。

このうち、重点施策については概要を2のとおり整理しました。

資料の構成は、「重点施策」（～ ページ）、「基本的な施策の実施状況」（～ ページ）で整理しています。

「Ⅱ 重点施策の実施状況」（4 ページ）

計画の施策体系のうち、「重点施策」と位置付けている各施策の実施内容を記載しています。また、その効果、課題、今後の方向性について、記載しています。

「Ⅲ 基本的な施策の実施状況」（18 ページ）

計画に掲げる「基本的な施策」に位置付けられている各事業の実施状況について、その概要を記載しています。

「Ⅳ 施策の実施状況一覧」（25 ページ）

2019年度に実施した施策の概要を一覧にしています。

「Ⅴ 進行管理のための参考指標」（●ページ）

施設の利用者数、利用率など量的なものと、文化芸術に関する県民の意識など質的なもの両面から、それぞれ関連するデータを記載しています。

3 重点施策の実施状況の概要（詳細は ～ ページに記載しています）

「重点施策」に位置づけた各事業の令和元年度実施状況は次のとおりでした。

重点施策1：地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用



○ 県民が伝統的な芸能の存在意義に対する認識を深め、魅力・価値を再発見し、将来にわたり大切に継承していこうという機運につなげていくことを目指し、「カナガワ リ・古典in秦野」などの日本の文化を紹介する事業を実施した。

○ 小・中学生を対象に日本舞踊等を体験できる「日本舞踊に学ぶ‘和’の作法」ワークショップ等の伝統的な芸能の体験・鑑賞機会の提供した。

重点施策2：子どもや高齢者・障がい者など、あらゆる人の文化芸術活動の充実等



○ 一般の高齢者が参加することができる「シニア劇団」を創設するなど、年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まで全ての人が、舞台芸術に参加し楽しめる取組を推進した。

○ 青少年センターにおける、マグカルシアター「青少年のための芝居塾」において、広く一般から募った青少年が、キャストだけでなく大道具や衣装、スタッフワークなど舞台の裏方の仕事を学ぶ機会を提供した。

重点施策3：国際文化交流の充実



○ 神奈川県内の子どもたちを対象とした、日本アフリカ国際交流企画「WASAWASA!ジャンベワークショップ&ミニコンサート」などの多文化共生を推進する取組を実施した。

○ （公財）かながわ国際交流財団が、国際交流や国際協力の積極的な推進、多文化共生社会の実現を目的として、高校生等を対象に、世界の現状や課題に対する理解を深め、豊かなコミュニケーション力を育むためのセミナーを開催した。

重点施策4：東京2020大会を契機とした施策



○ 県内各地の様々な文化イベントなど、497件を「神奈川文化プログラム」として認証し、神奈川全体で一体感を高め、東京2020大会に向けた文化イベント等の機運醸成を図った。

○ 「日本大通り流鏝馬騎射式」や「神奈川伝統・映像アートウォーク2019」などを実施し、幅広い年代層の集客が図れる演出を行うなどして、多くの方々が地域の伝統的な芸能に触れる機会を創出した。

重点施策5：文化芸術の振興を推進するための環境整備



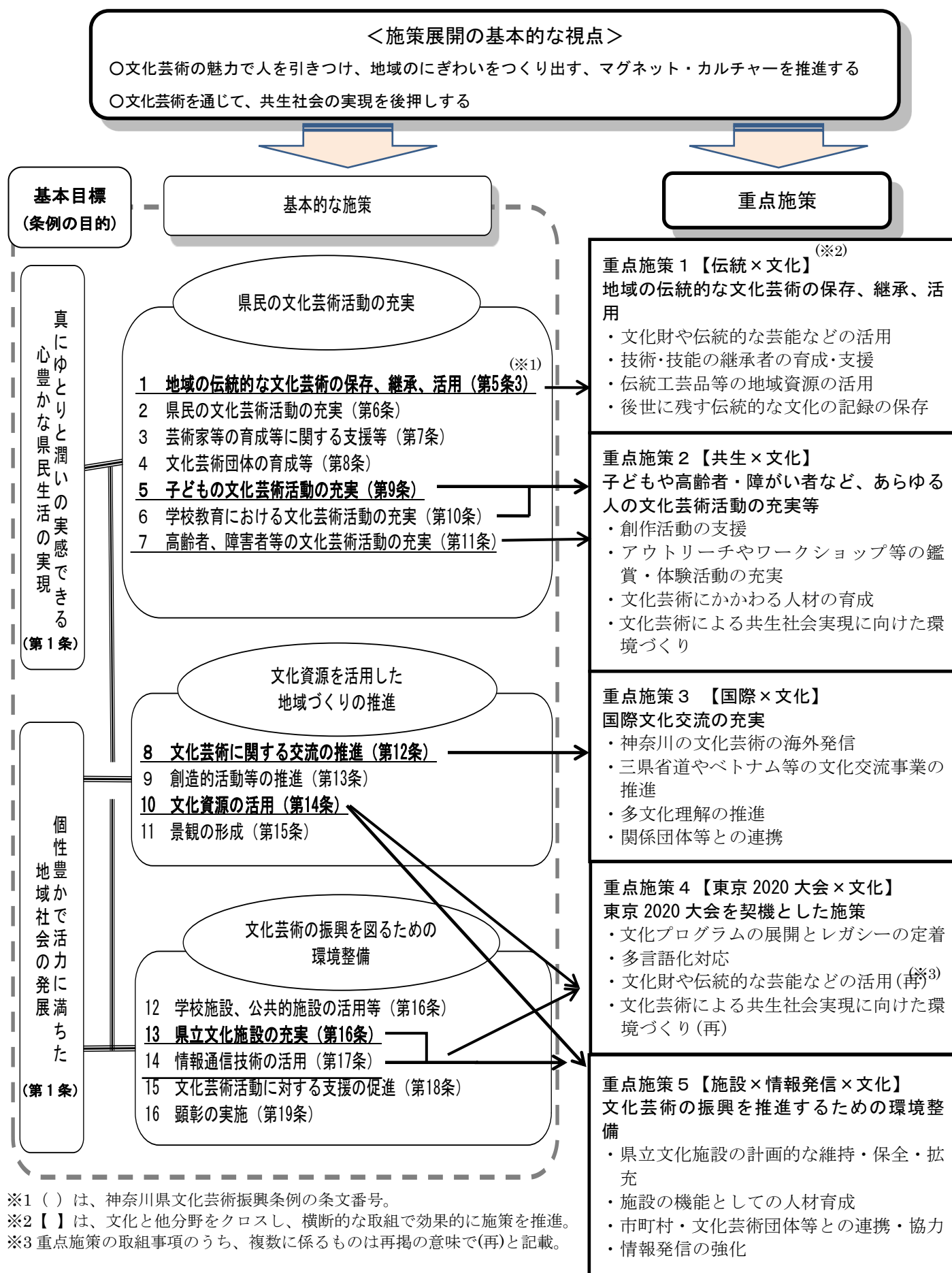
○ 県民ホールや音楽堂などの県立文化施設において、施設機能の維持や来館者の安全・安心の確保のため、修繕・工事等を実施した。

○ 文化芸術を求めて人々が集う神奈川を目指し、神奈川の文化プログラムを推進するため、県内市町村と連携しながら取り組むことを目的とした神奈川県オリパラ文化プログラム推進協議会を開催し、県と市町村の文化行政について情報共有を行った。

今後は、2019年度に実施したこうした取組を踏まえて、2021年に延期された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）の開催、県内の人口減少・高齢化、本県への訪日外国人旅行者数の傾向、本県に東アジア諸国の外国籍県民が多く在住していること、SDGsの動きなどの文化芸術を取り巻く本県の状況や第2期計画において様々な取組を実施したことにより明らかとなった課題に対応すべく、文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す、マグネット・カルチャーの取組を推進し、文化芸術を通じて、共生社会の実現を後押しするという、施策展開の基本的な視点を持って、第3期計画に基づき、施策を進めていく。

また、現在は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの文化芸術に係るイベント等が中止又は延期となり、文化芸術活動や鑑賞の場を十分に確保できない状況である。今後はコロナ禍における文化芸術を取り巻く課題や文化芸術のあり方を検討しながら、新型コロナウイルス感染症の感染状況等を見極めつつ、文化芸術への取組を進める必要がある。

＜第3期計画（計画期間：平成26年度～平成30年度）の施策体系図＞ ＜施策体系図＞



Ⅱ 重点施策の実施状況

重点施策 1 地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用

1 施策の内容

(1) 文化財や伝統的な芸能などを活用した文化芸術の発信

市町村と連携しながら、県民が伝統的な芸能の存在意義に対する認識を深め、魅力・価値を再発見し、将来にわたり大切に継承していこうという機運につなげていくことを目指し、「カナガワ リ・古典in秦野」や「2019かながわの太鼓」などの日本の文化を紹介する事業を開催した。

また、ラグビーワールドカップ2019™を契機とした「日本大通り流鏝馬騎射式」や「神奈川伝統・映像アートウォーク2019」などを実施し、幅広い年代層の集客が図れる演出を行うなどして、多くの方々が地域の伝統的な芸能に触れる機会を創出した。

(2) 伝統的な芸能を支える技術・技能の継承者の育成・支援

伝統的な芸能についての理解と認識を深めるとともに、継承者の育成につながるよう、市町村と連携しながら、小・中学生を対象に日本舞踊等を体験できる「日本舞に学ぶ‘和’の作法」ワークショップ及び能で使用する楽器体験といった「能楽ワークショップ」等の伝統的な芸能の体験・鑑賞機会の提供した。

また、「かながわこども民俗芸能フェスティバル〜れとろびーと2019〜」を開催し、ホールでの公演機会を提供することで、地域の伝統芸能に関心を持つ子ども・青少年を支援した。



「日本舞踊に学ぶ‘和’の作法」ワークショップ

(3) 伝統工芸品等の地域資源の活用



「カナガワ リ・古典 in 秦野」寄木細工

「カナガワ リ・古典 in 秦野」や「神奈川伝統・映像アートウォーク 2019」にて寄木細工のワークショップを実施し、伝統工芸品の普及促進を行った。

ものづくりに必要な設備機器等を木製品製造事業者への貸し出しや、新商品の試作等のための加工・製作などの「木製品ものづくり支援事業」を実施し、工芸を主とする木製品業者向けにものづくり支援や技術情報の提供を行った。

また、「工芸ヤングフォーラム」を実施し、小田原・箱根地域の木製品製造業に携わる若手工芸技術者を対象に、交流の場を提供したほか、箱根地域の寄木細工の職人と連携し、「カナガワ リ・古典 in

(4) 後世に残す伝統的な文化の記録の保存

「吉浜の鹿島踊」を初めとした、県内に所在する「鹿島踊」について、現状等の記録保存を行うことにより、県内の民俗芸能の保存・継承の基礎資料とするとともに、調査において当該芸能の特色を明らかにした。

2015 年度以降に県が実施した伝統的な芸能に係る事業について、報告書の整理を実施し、記録として後世に残していく取組を行った。

2 施策の効果

公演やワークショップといった機会を通じて、伝統的な芸能や地域で受け継がれている貴重な民俗芸能を紹介することで、県民の理解・認識を深めることができた。また、日本大通りや神奈川県庁舎で事業を実施し、幅広い年代層に興味を持っていただけるように工夫した企画を行い、「日本大通り流鏝馬騎射式」では、県内外のおよそ 4,000 人の方に来場いただくなど、日頃は伝統文化に興味を持っていない方にも、その価値を認識していただくことができた。

学生向けのワークショップや公演では、事業をきっかけに、終了後も継続して民俗芸能に取り組む児童・生徒もあり、伝統的な芸能を支える技術・技能の継承者の育成に一定の効果を得ることができた。

3 今後の課題

人口減少の影響により、地域において伝統的な芸能の継承者が減少するという問題があり、参加や鑑賞する側の人についても、触れる機会の減少やその価値が広く知られていないことから、伝統文化が失われていく恐れがある。また、公演事業においては高齢者層の来場が多く、ワークショップについては、県内各地域で実施し、次世代を担う青少年の参加者をより増やすための取組が必要である。

4 今後の方向性

県民をはじめ多くの人たちが県内各地域の伝統的な芸能を知る機会をもち、価値を知って大切に継承していけるような公演やワークショップ等の事業や、伝統的な芸能の記録を保存し、後世に伝えることを視野に入れた取組を継続して実施する。

その際、県内市町村とも連携しながら、各事業の参加者や対象地域を広げていくとともに、地域に根付かせていく取組を検討する。

また、次世代を担う青少年が文化財や伝統的な芸能に興味を持つような企画・広報を検討し、より幅広い世代に発信する取組を進める。

重点施策2 子どもや高齢者・障がい者など、あらゆる人の文化芸術活動の充実等

1 施策の内容

(1) 創作活動の支援

全国公募による美術展である、神奈川県美術展や中・高生を対象とした特別企画展を開催し、平面立体・工芸・書・写真といった様々な作品発表の機会を提供し、創作活動の発表の場の充実を図った。

また、青少年センターで実施している、未来のライブパフォーマンスを創造する若い才能の発掘と育成を目指す取組である「マグカルシアター」に採用された団体に対し、公演会場としてスタジオ HIKARI や研修室の無料での貸し出しや「中学校創作劇発表会」、「学校演劇交流フェスティバル」などを開催し、舞台芸術の創作のための支援を行った。



神奈川県美術展



マグカルシアター

(2) アウトリーチやワークショップ等の鑑賞・体験活動の充実

県立文化施設での子どもたちを対象とした公演として、KAAT 神奈川芸術劇場における「KAAT キッズプログラム」青少年センターにおける「青少年ダンス鑑賞会」などを実施し、演劇や音楽など、様々な芸術作品をホールで鑑賞する機会を提供した。また、「音楽堂ふれあいアウトリーチ」では、プロのオーケストラが県内の養護学校で演奏会やワークショップを実施した。

その他、近代文学館においては「かなぶんキッズクラブ」と称して紙芝居や絵本の読み聞かせ、映画の鑑賞会を実施したほか、近代美術館や歴史博物館等において子ども向けの講座やワークショップ、近隣の小中学校における出張授業などを開催した。

(3) 文化芸術にかかわる人材の育成

青少年センターにおける、「青少年のための芝居塾」において、広く一般から募った青少年が、キャストだけでなく大道具や衣装、スタッフワークなど舞台の裏方の仕事を学ぶ機会を提供した。

「マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー」では声楽、ダンス、演技、各分野の一流講師陣による実践的なレッスンを行い、成果発表会、夏のホール公演（ミュージカル）を通して舞台芸術のアーティストの育成を図った。



マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー

また、県民ホールでは「舞台芸術講座」を、KAAT 神奈川芸術劇場では「劇場運営インターン」、「舞台技術インターン」を実施し、国際的に通用する真のプロフェッショナル人材の育成のための取組を推進した。

(4) 文化芸術による共生社会実現に向けた環境づくり

共生共創事業として、障がい者や高齢者等が出演するプロの団体による公演事業の実施や、一般の高齢者が参加することができる「シニア劇団」を創設したり、「シニアダンス企画」を実施することで、年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まで全ての人が、舞台芸術に参加し楽しめる取組を推進した。

また、「神奈川県障害者文化・芸術祭」を実施し、障がい者の文化芸術活動（絵画、工作、ダンス、合唱等）の発表を行う場を用意するほか、ライトセンターにおいて視覚障がい者同士の交歓活動となる文化クラブの場を提供するなど、障がい者の社会参加の推進を図った。



共生共創事業「シニア劇団」

2 施策の効果

県内の美術作家や文化芸術団体に作品の創作・発表の機会を提供するとともに、県民に優れた美術作品や演劇を鑑賞する機会を提供することができた。

また、県立文化施設での子ども向け公演の開催や県内全域でのアウトリーチやワークショップ等を実施したことにより、舞台やオーケストラの鑑賞機会が少ない子どもたちや障がい者が優れた文化芸術に触れ、文化芸術への関心を高めることに繋げることができた。

青少年に対する舞台芸術にかかわる人材の育成については、舞台への出演だけでなく舞台の裏方の仕事も学ぶことで、青少年の思考力やコミュニケーション能力などを養い、健全育成に寄与することができた。

一般の高齢者が参加可能な劇団を創設したことで、アンケートに回答した劇団員全員が参加して「良かった」、84%が心や気持ちが「元気になった」とあり、高齢者の文化活動の充実を図るとともに、共生の理念を普及し「ともに生きるかながわ」の実現に寄与することができた。

3 今後の課題

舞台芸術以外の分野における創作活動については高齢化が目立つため、より幅広い年代が創作活動を行い発表できる機会を提供する必要がある。

アウトリーチやワークショップにおいては限られた回数しか実施できないため、地域的な差異を補完し、さらに多くの県民に文化芸術を鑑賞・体験する機会を提供する必要がある。また、青少年の文化芸術への関心が高まるとともに、興味が多様化してきているため、県民のニーズを把握し事業に反映していく。

共生社会時代に向けた環境づくりにおいては、引き続き、ともに生きる社会かながわ憲章の理念の着実な普及に努め、共生社会の実現に寄与していく必要がある。

4 今後の方向性

年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人までのあらゆる人が文化芸術活動を行うことができる環境づくりのため、創作活動の支援や発表の場の提供を引き続き行っていく。

アウトリーチやワークショップ等については、県立文化施設や関連するNPO等のノウハウやネットワークを生かして、学校や障がい者・高齢者施設等と連携するなど、県内全域での実施を目指す。

また、舞台芸術人材の育成については、青少年センター等の県立文化施設を神奈川の舞台芸術シーンの拠点として、多くの人材が集える場所として整備していくとともに、より多くの人材育成が可能となるよう、関係団体と協力しながら取組を進める。

重要施策3 国際文化交流の充実

1 施策の内容

(1) 神奈川の文化芸術の海外発信

KAAT 神奈川芸術劇場において、国内外のプロフェッショナルが交流するT P A M（国際舞台芸術ミーティング in 横浜）を、複数の文化芸術関連団体と協働して実施し、日本の舞台芸術を発信するとともに、海外からの舞台芸術の日本初演の公演を実施するなど、国際交流の推進を図った。

また、県民ホールでは英国ロイヤルオペラによる「オテロ」やロイヤル・バレエ団による公演など、国際色豊かな事業を実施した。

(2) 三県省道やベトナム等の文化交流事業の推進

ベトナム・神奈川の文化や食などをPRするプログラムを盛り込んだイベントを通して、両地域の相互理解を深め、幅広い分野での交流を更に推進するため、「ベトナムフェスタ in 神奈川 2019」及び「KANAGAWA FESTIVAL in HANOI 2019」を実施した。

また、世界文化交流プロジェクトとして、ベトナムとの演劇による交流を促進することを目的に「ワーニャ伯父さん」を公演した。

三県省道スポーツ交流事業では、中国・遼寧省の青少年が来日し、スポーツ親善試合だけではなく、県内の文化・観光施設の観覧や、県立高校への訪問を実施し空手・けん玉等の日本文化交流ワークショップを実施するなど、幅広い青少年交流を図った。



ベトナムフェスタ in 神奈川 2019「水上人形劇」



KANAGAWA FESTIVAL in HANOI 2019「よさこい」

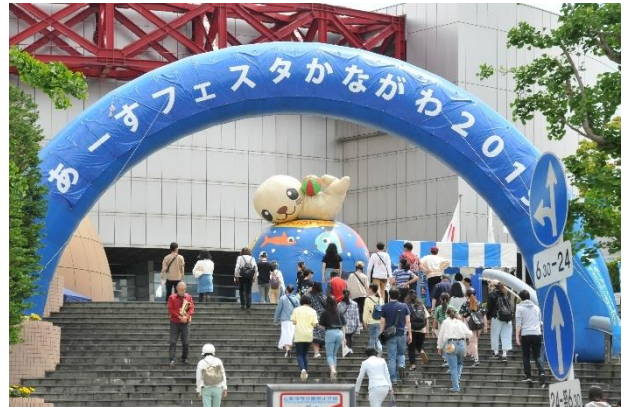
(3) 多文化理解の推進

神奈川県内の子どもたちを対象とした、日本アフリカ国際交流企画「WASAWASA! ジャンベワークショップ&ミニコンサート」や、多様な国籍文化や民族の違いを理解し、認め合うことのできる多文化共生社会の実現をめざし、県内の民族団体、NPO、市民ボランティア等が企画段階か

ら関わり、学び合いながらともに作り上げた「あーすフェスタかながわ 2019」などの多文化共生を推進する取組を実施した。



「WASAWASA! ジャンベワークショップ&ミニコンサート」



あーすフェスタかながわ 2019

(4) 関係団体等との連携

(公財) かながわ国際交流財団が、国際交流や国際協力の積極的な推進、多文化共生社会の実現を目的とした各種事業を展開しており、高校生等を対象に、世界の現状や課題に対する理解を深め、豊かなコミュニケーション力等を育むためのセミナーを開催した。

また、国連大学と共催し、県内大学をはじめ、首都圏を中心とする大学と協力の上、留学生を含む大学生を対象に国際課題をテーマとしたセミナーを開催し、青少年が国際理解や課題を学ぶことにより、今後、主体的に学ぶきっかけを提供した。

2 施策の効果

T P A M (国際舞台芸術ミーティング in 横浜) では、公演をはじめとする多彩なプログラムを通じて、情報交換やネットワーク構築の場を提供できた。

また、様々な国の音楽・舞台等に触れることができる公演・ワークショップにより、県民がその国や地域の文化芸術を知り、文化交流を行う機会を提供した。

ベトナムとの交流事業では、ベトナム政府との太いパイプが構築され、ベトナム労働・傷病兵・社会省との人材育成に関する覚書を締結し、新たな連携が生まれた。

多文化理解の推進については、イベントにより訪日外国人や外国籍県民と県民との交流が促進され、また、県内の学生向けのセミナーの開催等により、多文化共生の意識醸成に繋げることができた。

3 今後の課題

今後も、国際色豊かな文化事業を展開するとともに、相互理解を深めるための国際交流事業の中で文化交流を推進することが必要である。

特に、ベトナム政府と覚書を締結したことから、ベトナム関連団体や企業等との交流やネットワーク等を活用し、県内における文化等の様々な分野において、効果を上げていく必要がある。

また、若い世代やより多くの外国籍県民が参加し、交流できる事業を実施し、多文化理解の推進

に取り組む必要がある。

4 今後の方向性

今後も引き続き、様々な国や地域との国際交流事業を実施しながら神奈川発の文化芸術を海外に発信していくとともに、県立文化施設において国際色豊かな取組を充実させることで、県民の国際交流や海外の文化芸術に対する理解を深める取組を推進していく必要がある。

また、関係団体等と連携しながら、より多くの青少年や外国籍県民に参加を促せるような多文化共生をテーマとした事業を企画・開催することによって、国際色豊かな本県の多文化理解を推進する。

重点施策 4 東京 2020 大会を契機とした施策

1 施策の内容

(1) 文化プログラムの展開とレガシーの定着

県内各地の様々な文化イベントなど、497 件を「神奈川文化プログラム」として認証し、神奈川県全体で一体感を高め、東京 2020 大会に向けた文化イベント等の機運醸成を図ることができた。

ラグビーワールドカップ 2019™ 及び東京 2020 大会の機会をとらえ、世界的に有名な演劇を公演することを目的とした令和元年度世界文化交流プロジェクトの中で、県内の文化芸術団体及び各国の行政機関等と協働し、日本とフィンランドの外交関係樹立 100 周年を記念し「VORTEX」を公演した。

また、ラグビーワールドカップ 2019™ の準決勝が横浜で開催される日程に合わせて「日本大通り流鏝馬騎射式」や日本大通りにおいて日本伝統文化×デジタル技術を融合させたナイトアートイベント「浮世絵アートウィーク 2019」を実施した。

(2) 多言語化対応

国内観光客及び訪日観光客向けに、県内の魅力的な文化芸術コンテンツやラグビーワールドカップ 2019™ の特集を掲載した冊子「Cultural Programs in Kanagawa 2019-2020」や、県内の文化イベント情報をカレンダー形式で掲載する情報誌「マグカル・イベントカレンダー」を、日英併記で作成した。

多言語情報紙「こんにちは神奈川」の発行にあたり、記事や発行趣旨に合ったイラストを盛り込み、より適切な表現になるよう多言語の翻訳チェックを行い、外国籍県民等が手に取りやすい紙面となるよう工夫をした。

また、県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」において、訪日外国人向け特集記事を作成し、ネイティブによる多言語翻訳を行うとともに、国内外向けのインターネット広告を通年で展開した。



Cultural Programs in Kanagawa 2019-2020

(3) 文化財や伝統的な芸能などを活用した文化芸術の発信（重点施策1の再掲）

市町村と連携しながら、県民が伝統的な芸能の存在意義に対する認識を深め、魅力・価値を再発見し、将来にわたり大切に継承していこうという機運につなげていくことを目指し、「カナガワ・リ・古典 in 秦野」や「2019 かながわの太鼓」などの日本の文化を紹介する事業を開催した。

また、ラグビーワールドカップ 2019™を契機とした「日本大通り流鏝馬騎射式」や「神奈川伝統・映像アートウォーク 2019」などを実施し、幅広い年代層の集客が図れる演出を行うなどして、多くの方々が地域の伝統的な芸能に触れる機会を創出した。

(4) 文化芸術による共生社会実現に向けた環境づくり（重点施策2の再掲）

共生共創事業として、障がい者や高齢者等が出演するプロの団体による公演事業の実施や、一般の高齢者が参加することができる「シニア劇団」の創設及び「シニアダンスワークショップ」の実施をすることで、年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まで全ての人が、舞台芸術に参加し楽しめる取組を推進した。

また、「神奈川県障害者文化・芸術祭」を実施し、障がい者の文化芸術活動（絵画、工作、ダンス、合唱等）の発表を行う場を用意するほか、ライトセンターにおいて視覚障害者同士の交歓活動となる文化クラブの場を提供するなど、障がい者の社会参加の推進を図った。

2 施策の効果

各国の行政機関等と協働した事業の実施や、イベントにオーストラリアやロシアなど7つの国と地域から外交官等の来賓を招くなど、東京 2020 大会に向けて諸外国との文化交流を促進させるものとなった。

「Cultural Programs in Kanagawa 2019-2020」や「マグカル・イベントカレンダー」といった情報誌に「マグカル・ドット・ネット」の二次元コードを掲載したことから、当該サイトのページビュー数が過去最大値を記録し、より多くの方が県内で実施するイベント等の情報を閲覧することで、イベント等の周知や集客に貢献した。

また、首都圏の公道では初めての開催となった「日本大通り流鏝馬騎射式」は翌年度の実施を求める声が多く、継続的な伝統的な芸能の発信や地域の活性化に寄与した。

3 今後の課題

「神奈川文化プログラム」の認証を限られた地域ではなく、県内のより多くの地域で行っている文化芸術活動に対して認証し、県内の文化芸術活動や地域の継続的な活性化に繋ぐことができるよう、取り組む必要がある。

また、これまで交流してきた諸外国とは、東京 2020 大会以降も継続的に文化交流を行い、より多くの県内に訪れる外国人や外国籍県民等の情報格差を解消し、文化芸術のイベントや活動への参加を促進する必要がある。

4 今後の方向性

今後も引き続き、「神奈川文化プログラム」の認証により、官民一体となってオール神奈川で文化プログラムに取り組むとともに、文化プログラムを通じて構築された市町村や関係団体等とのネットワークを生かし、東京 2020 大会に向けてマグカル事業を展開していく。

その上で、あらゆる人に情報が伝わるよう、県内に訪れる外国人や外国籍県民等に必要情報が効果的に提供できるよう努める。



浮世絵アートウィーク 2019

重点施策5 文化芸術の振興を推進するための環境整備

1 施策の内容

(1) 県立文化施設の計画的な維持・保全・拡充

県民ホールでは楽屋入口空調設備工事、KAAT 神奈川芸術劇場では調光装置部品交換工事、県立音楽堂では無線LANアクセスポイント設置工事、かながわアートホールでは舞台隙間調整・框取替工事など、施設機能の維持や来館者の安全・安心の確保のため、修繕・工事等を実施した。

また、青少年センターでは2021年度から実施する、既存不適格の状態を解消するための「特定天井」に該当する天井の改修工事のため、改修工事設計調査を実施した。

(2) 施設の機能としての人材育成

県民ホールやKAAT 神奈川芸術劇場において、劇場運営マネジメントプロフェッショナル人材養成講座や劇場体験インターン事業、大学等と連携した公演制作に係る人材養成プログラムを展開し、各施設の特色を生かした文化芸術に関する人材の育成した。

また、青少年センターにおいては学生のほかに教員を対象とした「青少年ダンス講習会」や「中・高等学校演劇講習会」、「演劇指導者のための実践的ワークショップ」を実施し、ダンスや演劇の基礎的理論や演出、演技、舞台づくり、照明、音響等に係る総合的な創造方法を学習する機会を提供した。



KAAT 神奈川芸術劇場「舞台技術講座」

(3) 市町村・文化芸術団体等との連携・協力



神奈川伝統・映像アートウォーク 生け花体験

文化芸術を求めて人々が集う神奈川を目指し、神奈川の文化プログラムを推進するため、県内市町村と連携しながら取り組むことを目的とした神奈川県オリパラ文化プログラム推進協議会を開催し、県と市町村の文化行政について情報共有を行った。

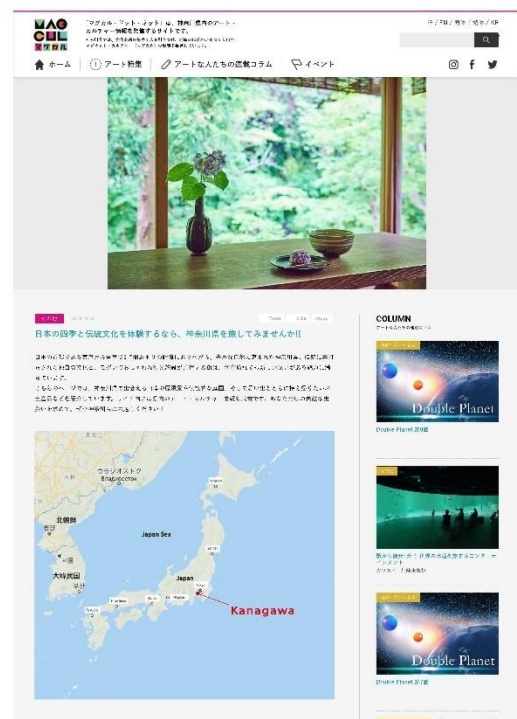
また、県内の様々な文化芸術団体と協力し、「歌舞伎鑑賞教室」などの伝統芸能のワークショップや共生共創事業、東京 2020 大会を見据えた文化プログラムである「神奈川伝統・映像アートウォーク」など、様々な事業を実施した。

(4) 情報発信の強化

県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」において、県内の演劇・ダンス・音楽・映像など、各種イベント情報を随時発信するほか、文化芸術に関する記事を作成した。

また、マグカル・ドット・ネットの SNS のほか、県立文化施設等でも SNS 等を利用し、各媒体のユーザーに合った情報を提供して情報発信の強化を行った。

情報誌については、国内観光客及び訪日観光客向けに、県内の魅力的な文化芸術コンテンツを掲載した「Cultural Programs in Kanagawa 2019-2020」や、県内の文化イベント情報をカレンダー形式で掲載する情報誌「マグカル・イベントカレンダー」を日英併記で作成した。



マグカル・ドット・ネット コラム

2 施策の効果

各施設の改修工事等を適切に行い、利用者の方に施設をより安全に利用していただくために計画的な整備を行うことができた。

人材育成に関する事業については、施設を使い、実際の業務を体験することによって、実践的な研修の場を提供することができた。また、ダンスや演劇等の舞台芸術について総合的に学ぶことで次世代を担う青少年やその指導者の演劇・ダンスの創造活動の発展向上に資することができた。

また、市町村・文化芸術団体等との様々な事業や広報を連携することによって、県民が文化芸術のイベント等の情報を知り、参加する機会を創出することができた。

3 今後の課題

県民ホールは開館から 45 年、音楽堂は 65 年が経ち、必要に応じて大改修を行ってきたが、全国的に劇場・音楽堂等の文化施設の老朽化が問題になっている中で、本県も県立施設の長寿命化等に向けて、必要な修繕や拡充を計画的に進めていく必要がある。

人材育成や情報発信力の強化についても、市町村や文化芸術団体と連携・協力をしながら、限られた地域だけでなく、より多くの地域から多くの人が事業に参加できるような取組を推進する必要がある。

4 今後の方向性

県民ホールなどの県立文化施設について、計画的な維持、保全に努める。

また、ソフト面の環境整備に関して、人材育成については、関係団体と連携して、ニーズに沿った必要な取組を継続して実施していく。

情報発信については、「マグカル・ドット・ネット」において、訪日外国人向けに多言語化翻訳記事の作成を行うなど、国内外向けのインターネット広報をさらに展開しながら、市町村や文化芸術団体と連携を行い、県内外の人に情報が等しく伝わるよう、強化をしていく。

Ⅲ 基本的な施策の実施状況

1 県民の文化芸術活動の充実

(1) 地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用

【施策の方向性】

地域の伝統的な芸能の大切さについての理解、認識を深めるとともに、後継者の育成につながるよう、市町村と連携しながら伝統的な芸能の体験・鑑賞機会の提供、発表機会の確保などに取り組む。

文化財の保護を図るため、未指定文化財を調査し、指定等の保護措置を講ずるほか、文化財の活用・保護の普及啓発のため、展覧会や講座などを開催する。

【主な施策の内容】

重点施策1に記載した施策のほか、主に次のとおり取組を行った。

- ・ 県内の文化芸術活動団体が行う事業に対して公募により補助金を交付した。
- ・ 指定文化財等の保存修理等に対して、補助金を交付し、文化財の保存活用を図った。
- ・ 県立歴史博物館において、神奈川県文化と歴史に主眼を置いた資料の収集や収蔵資料の定期的な修繕を行った。

(2) 県民の文化芸術活動の充実

【施策の方向性】

県立文化施設での文化芸術に関する講座・講演会等の開催や、広報誌やホームページなどで文化芸術に関する情報提供を行うことにより、県民の文化芸術に対する関心や理解を深める。

県立文化施設での公演、展覧会などの鑑賞機会の提供や優れた文化芸術の鑑賞機会を提供する文化芸術団体への支援により、県民の鑑賞機会の充実を図る。

県民が文化芸術活動（創作・練習・稽古・発表等）を行う際に利用できる文化施設を運営するとともに、県民が参加できる展覧会やコンクールなどの開催により、県民自らが行う文化芸術活動を支援する。

県内各地で開催される文化芸術の催しや文化芸術団体の活動情報など、県民が文化芸術の鑑賞や活動を行う際に必要とする情報を広報誌やホームページなどで提供する。

【主な施策の内容】

- ・ 近代文学館や金沢文庫等の県立文化施設において、展覧会の開催に合わせて説明会や公演会を実施した。
- ・ 県民ホールや県立音楽堂等において、オペラやバレエ、クラシック音楽コンサートといった様々なジャンルの舞台芸術の公演を実施し、優れた文化芸術の鑑賞機会を提供した。
- ・ 「マグカル推進事業補助金」により、神奈川文化プログラムの核となる事業を実施する団体から企画案を募集し、支援を行った。
- ・ 「神奈川芸術プレス」を発行し、県民ホール、KAAT 神奈川芸術劇場及び県立音楽堂の公演情報や県内の文化情報等を周知した。

（３）芸術家等の育成等に関する支援等

【施策の方向性】

将来の活躍が期待される芸術家等の発掘や育成支援を実施し、また、文化施設で催される様々な公演事業を支える舞台技術者等の育成に取り組む。

県立文化施設などを活用し、芸術家等が創作・練習・稽古等に利用しやすい仕組みづくりを行うなど、創作のための環境の整備を図る。

芸術家等の創造的活動の成果を発表するための展覧会や公演事業などを開催するとともに、県立文化施設の主催事業などで将来の活躍が期待される芸術家等の積極的な登用を行う。

【主な施策の内容】

- ・ 神奈川県在住、在職又は神奈川に深いゆかりのある者で、神奈川の文化の向上発展に尽力し、その功績顕著な個人又は団体に対して「神奈川文化賞」を、また、神奈川の文化の向上発展に貢献することが大いに期待される若い世代に「未来賞」を贈呈した。
- ・ 次世代を担うと期待される神奈川県ゆかりの才能ある若手奏者を広く県民に紹介し、オーケストラとの共演を通じてその才能の一層の育成を図ることを目的とした、フレッシュ・コンサートを(公財)神奈川フィルハーモニー管弦楽団と共催し実施した。

（４）文化芸術団体の育成等

【施策の方向性】

文化芸術団体の自主的な活動を支援することにより、文化芸術団体の多様な活動を促進するとともに、文化芸術団体との連携・協働に取り組む。

【主な施策の内容】

- ・ 文化芸術団体等が主催する、県内において実施する事業について、県の文化芸術の振興に寄与すると認められるものに、神奈川県の後援名義の使用を承認した。
- ・ かながわ児童演劇グループ交流会を実施し、地域で人形劇などの児童文化活動を行っているアマチュアグループに活動成果の発表と相互交流の場を提供した。

（５）子どもの文化芸術活動の充実

【施策の方向性】

県立文化施設で子どもたちが様々な文化芸術を鑑賞する機会を提供する。

子どもたちが自ら行う文化芸術活動を支援するとともに、文化芸術を体験する機会の充実を図る。

【主な施策の内容】

重点施策２に記載した施策のほか、主に次のとおり取組を行った。

- ・ 県民ホール、KAAT 神奈川芸術劇場及び県立音楽堂において、オープンシアター2019を開催し、子ども向けバレエの上演や、オルガンとうたのコンサート、ワークショップ等のイベントを実施した。

- ・ 神奈川フィル・ジュニアオーケストラ 2019 を開催し、子どもたちがプロのオーケストラと共に音楽創造活動体験をする機会を提供した。
- ・ 藤野芸術の家において夏休みに自由研究に適した教室を実施し、子どもから大人まで多くの人々が自ら陶芸・木工・ガラス工芸等の制作活動を通して、文化芸術に親しむ機会を提供した。

（６）学校教育における文化芸術活動の充実

【施策の方向性】

小中学校などの学校教育における文化芸術に関する体験学習などの充実を県及び市町村の教育委員会と連携して図るとともに、芸術家等や文化芸術団体が学校教育の中で行う文化芸術活動に必要な協力や支援を実施する。

【主な施策の内容】

重点施策２に記載した施策のほか、主に次のとおり取組を行った。

- ・ 小・中・高等学校を対象に、演劇の発表会を開催した。
- ・ 中・高等学校の演劇部を対象に、演劇部の底上げを図るための実践的な講座を実施した。
- ・ 県高等学校総合文化祭を開催し、県内高等学校の文化・芸術活動において、相互交流・啓発を促進し、文化・芸術活動の一層の活性化を図った。

（７）高齢者、障がい者等の文化芸術活動の充実

【施策の方向性】

高齢者、障がい者、子育て中の保護者などが、文化芸術に親しみ自ら文化芸術活動を楽しめるよう、文化芸術団体と協力しながら、文化芸術の鑑賞機会の提供や自らが文化芸術活動を楽しむための取組を推進するとともに、文化施設のバリアフリー化や利用サービスの向上に努める。

【主な施策の内容】

重点施策２に記載した施策のほか、主に次のとおり取組を行った。

- ・ （公財）神奈川フィルハーモニー管弦楽団が、県内の養護学校や県立病院を室内楽編成で巡回するボランティア演奏会を実施した。
- ・ KAAT 神奈川芸術劇場託児ルームを設定し、主催公演において、乳幼児を育てる県民に対する、文化芸術鑑賞機会の提供に寄与した。

2 文化資源を活用した地域づくりの推進

(1) 文化芸術に関する交流の推進

【施策の方向性】

国民文化祭等への参加や他県との交流事業の実施などにより、文化芸術の地域間交流を推進する。

文化芸術を介した国際交流事業の実施や県立文化施設での海外の作品の鑑賞機会の提供などにより、国際交流や海外の文化芸術に対する理解を深める取組を推進する。

多文化共生イベントの開催や多文化理解を深めるための講座を実施するなど、多文化理解を推進する。

【主な施策の内容】

重点施策3に記載した施策のほか、主に次のとおり取組を行った。

- ・ 国民文化祭の開催県である新潟県と連携し、文化団体等へ国民文化祭の開催及び参加を周知した。
- ・ 県立近代美術館において巡回展を実施し、県内だけではなく、福島県や三重県も巡回し、交流を図った。
- ・ 県内でアーティスト・イン・レジデンス事業を実施する、アートプロジェクト等の実施団体の支援を行った。

(2) 創造的活動等の推進

【施策の方向性】

県立文化施設の活用や文化芸術団体との連携により、新しい文化芸術の創造的活動を推進するとともに、これらを国内外に発信する取組を実施する。

【主な施策の内容】

- ・ KAAT 芸術劇場において、国内外の優れた制作者との共同制作公演に積極的に取り組み、新たな舞台芸術作品の創造や新作公演を実施した。
- ・ エンターテインメントレストラン「浮世絵カフェ」を開設し、「和」をテーマとしたデジタル映像の映写と浮世絵を活用したパフォーマンスを行うショーを定期的に開催した。

(3) 文化資源の活用

【施策の方向性】

県内の文化資源の発掘に努め、その具体的な活用方策を検討する。また、地域の活性化等に活用可能な文化資源については、市町村、文化芸術団体、芸術家、企業などとの連携により有効活用に努めるとともに、その魅力を広くPRするための情報発信に取り組む。

【主な施策の内容】

重点施策4及び5に記載した施策のほか、主に次のとおり取組を行った。

- ・ 歩行者天国となった県庁前の日本大通りを活用し、音楽、ダンス、大道芸等のジャンルを問わず自由に発表できる開放的な空間である「マグカル開放区」を実施した。
- ・ シンポジウムやワークショップ、ツアーなどを実施し、箱根ジオパークに対する地域の機運醸成及びジオパークとしての環境整備を行った。
- ・ 「観光かながわNOW」において、県内の伝統的な行事や祭りの開催など文化資源に関する地域情報を発信した。
- ・ 「日本遺産」の新規認定申請について、県内市町村等への周知や、既認定の「日本遺産」について、文化庁補助金の周知や助言を通じ、市町村や地元協議会による地域活性化の取組を支援した。

（４）景観の形成

【施策の方向性】

県内各地の自然景観、歴史的景観、都市景観などの良好な景観の形成に当たっては、文化的諸条件などに配慮し、魅力ある景観づくりに取り組む。

【主な施策の内容】

- ・ 文化庁や全国文化的景観地区連絡協議会による研修や普及啓発について県の関係部局及び県内市町村に周知し、重要文化的景観の制度等の周知を通じて、選定に向けた機運の醸成に努めた。

3 文化芸術の振興を図るための環境整備

(1) 学校施設、公共施設の活用等

【施策の方向性】

学校開放などの取組により、空き教室や休日等の学校施設を県民の文化芸術活動のために利用できるよう努める。また、文化施設以外の庁舎などの公共的施設についても、作品の展示などの利用ができるよう取り組む。

【主な施策の内容】

県立学校の図書室、音楽室などの学習施設や、グラウンド・体育館などの体育施設を県民の学習や文化活動、スポーツ活動の場として提供した。

(2) 県立文化施設の充実

【施策の方向性】

県立文化施設では、文化芸術の鑑賞や活動、交流の場としての機能に加えて、施設の特性に応じ、文化芸術に関する人材の育成や教育普及活動に取り組む。

県立文化施設の機能を最大限に発揮させるため、効果的な事業の実施や効率的な施設運営等について、適切な検証を行う。

県立文化施設の文化芸術発信拠点としての機能を充実させるため、長寿命化や県民ニーズに対応した施設改修や、文化資源を収蔵するための施設整備に取り組む。

【主な施策の内容】

重点施策 5 に記載した施策のほか、主に次のとおり取組を行った。

- ・ 県民ホール本館、KAAT 神奈川芸術劇場及び県立音楽堂の 3 館一体による効率的な運営が行われているかをチェックするため「神奈川県立県民ホール及び音楽堂指定管理業務実績評価委員会」を設置し、公募委員を含む委員により指定管理者が行う自主事業公演のモニタリングを行い、その内容について会議を開催した。
- ・ 県立文化施設の指定管理者に対して、県の行政管理課が定める「指定管理者制度の運用に関する指針」等に基づき、協定書に定めた利用者満足度調査を実施した。

(3) 情報通信技術の活用

【施策の方向性】

文化芸術に関する情報や資料などを容易に入手できるよう、ホームページや電子メールを活用した情報提供を行うとともに、東京 2020 大会を契機とし、多言語による情報提供を推進する。

また、県立文化施設が保管・保有する公開資料を容易に利用できるよう、検索や閲覧に情報通信技術を活用するよう取り組む。

県立文化施設の利用手続において、窓口を訪れる負担などを軽減するため、情報通信技術を活

用し、自宅から利用予約が可能となるよう、利用者サービスの向上に取り組む。

県立文化施設に保存・保管されている文化芸術にかかわる資料について、デジタル化、データベース化を図り、利用者の利便性を高める取組を推進する。

【主な施策の内容】

重点施策4及び5に記載した施策のほか、主に次のとおり取組を行った。

- ・ 近代文学館や金沢文庫において、所蔵資料のデータベース化を実施し、利用者がPCやスマートフォンで検索・閲覧できるデータベースを公開した。
- ・ 施設予約システムにおいて、原則24時間どこからでもインターネットを通じて、県内公共施設の空き状況の照会や予約申込を行えるようにすることで、県民の利便性を向上させるとともに、職員側の施設予約管理に関する事務処理の効率化を図った。

（４）文化芸術活動に対する支援の促進

【施策の方向性】

文化芸術の振興に寄与する寄附税制等の周知などにより、個人や企業からの寄附や支援が活発に行われるよう取り組む。また、文化芸術活動に参加するサポーターについて検討を行う。

【主な施策の内容】

- ・ かながわキンタロウ寄附金（ふるさと納税）の寄附メニューに「あらゆる人が文化芸術に触れ笑顔になれる社会を！」を追加し、文化芸術に触れる機会が少ない方々に対して、オーケストラを鑑賞する機会を提供するための支援を開始した。
- ・ （公財）神奈川芸術文化財団が（公社）企業メセナ協議会に会員として参加し、情報収集を行った。

（５）顕彰の実施

【施策の方向性】

文化芸術活動で顕著な成果を収めた人や団体、また、文化芸術の振興に寄与した人や団体の顕彰を実施する。

【主な施策の内容】

- ・ 神奈川県在住、在職又は神奈川に深いゆかりのある者で、神奈川の文化の向上発展に尽力し、その功績顕著な個人又は団体に対して「神奈川文化賞」を、神奈川の文化の向上発展に貢献することが大いに期待される若い世代に「未来賞」を贈呈した。

1 県民の文化芸術活動の充実

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(1) 地域の伝統的な文化芸術の保存・継承・活用							
カナガワ リ・古 典in秦野	秦野市を舞台に、県内の 古典や各地の貴重な 伝統文化の魅力・価値 を再発見し、継承への 機運醸成を目指し、民 俗芸能フェスティバル 事業を開催した。	県にゆかりのある伝統 芸能をデジタル映像と 組み合わせることで、 今まで馴染みのなかつ た方にも、現代を生き る文化芸術として「再 (Reリ)」発信するこ とができた。	1,318人	2019年10月20日	クアーズテック秦野 カルチャーホール(秦 野市文化会館)	当該事業、周辺イベン ト、ともに地域と連携 して実施したことで、地域 のにぎわい創出に寄与し た。	重点施策 1、4
相模人形芝居学 校交流ワーク ショップ	高等学校等において、 伝統芸能への関心を喚 起し、団体の活動の紹 介や上演等を行うワー クショップを行った。		1,013人	2019年5月21日、10 月1日、12月7日、 2020年1月30日	①座間、南足柄、平 塚、海老名の4会場	—	重点施策 1
人形浄瑠璃文楽	県民の伝統文化への理 解を促進し、継承、発 展への機運を盛り上げ るために、青少年・一 般県民を対象に、人形 浄瑠璃文楽を上演し た。	青少年の参加者増を 狙って、文楽・人形浄 瑠璃クラブがある学校 等の生徒を招待した。	925人	2019年10月13日(2 回)	青少年センター	アンケート結果は、「大 変良かった」「良かった」と回答した方が、昼 が98.9%、夜が100%と、全 体で99.5%を占めており大 変好評であった。	重点施策 1、4
歌舞伎鑑賞教室	県民の伝統文化への理 解を促進し、継承、発 展への機運を盛り上げ るために、青少年・一 般県民を対象に、歌舞 伎を上演した。	実際に公演で使われる 歌舞伎の小道具をホワ イエで展示し、自由に 体験できるコーナーを 設けた。	1,533人	2019年7月26日～27 日(4回)	青少年センター	アンケート結果は、4公 演を通算して「大変良 かった」「良かった」を 合わせて96.6%にの ぼった。	重点施策 1、4
日本舞踊に学 ぶ'和'の作法	小・中学生を対象に、 着物の着方の練習、日 本舞踊等を体験する ワークショップを行っ た。	参加料を無料にするこ とによって参加しやす くし、応募者数を増や す努力を行った。	85人	2019年7月26日～27 日、8月3日～4 日、8月10日～11 日、8月13日～14日	横須賀、平塚、南足 柄、横浜の4会場	アンケートの結果、 97.5%の参加者が内容に 「満足」と回答した。	重点施策 1
かながわの太鼓	神奈川県太鼓連合加盟 団体が一堂に会し、県 外の団体も参加して創 作太鼓演奏を披露し た。	ジュニアコンクール神 奈川県優勝1団体等若 い世代も参加した。	620人	2019年11月10日	青少年センター紅葉 坂ホール	—	重点施策 1、4
地芝居2020	青少年・一般県民に対 象に、県内で地芝居と 伝統芸能を継承する団 体の活動成果を披露し た。		新型コロナウイルス 感染症拡大防止のた め中止		青少年センター	—	重点施策 1、4
日本大通り流鏝 馬騎射式	日本大通り県庁前にお いて、首都圏公道初と なる、流鏝馬騎射式を 実施した。	ラグビーワールドカッ プ2019 TM の準決勝が横 浜国際総合競技場でも 開催される日程に合わ せることにより、7つ の国と地域から外交官 等の来賓を招くことが できた。	4,000人	2019年10月27日	日本大通り特設馬場	【来場した大使館等】 モロッコ大使館、エクア ドル大使館、台北駐日経 済文化代表處横浜分處、 オーストラリア大使館、 ロシア大使館、フィリピン 共和国大使館、トルコ 大使館	重点施策 1、4
神奈川伝統・映 画アートウォーク	神奈川県庁本庁舎を丸 ごと利用し、神奈川県 にゆかりのある伝統芸 能から、最先端のメ ディアアートなどの現 代芸術まで様々な文化 を一度に体験できる屋 内イベントを実施し た。	庁舎公開日及びラグ ビーワールドカップ 2019 TM の準決勝日に実 施したことで、誘客に 効果的であった。	2,519人	2019年10月26日～27 日	神奈川県庁本庁舎	【ワークショップ等の参 加者数：計210人】 ・能楽ワークショップ： 40人 ・日本舞踊ワークショッ プ：44人 ・生け花ワークショッ プ：23人 ・寄木細工のコースター 製作などの体験ワーク ショップ：53人 ・相模人形芝居下中座に よる人形ワークショッ プ：50人	重点施策 1、4
かながわこども 民俗芸能フェス ティバル〜れと ろびーと2019〜	地域で継承されている 民俗芸能を県民に紹介 することで、伝統文化 への理解を深め、伝統 文化の継承、発展への 機運を醸成するととも に、後継者育成を支援 するためのイベントを 開催した。	県内で伝承されている 2種類の人形芝居の継 承活動に着目し、ホー ールでの公演機会を提供 することで、地域の伝 統芸能の継承に取り組 む子ども・青少年を支 援した。	396人	2019年11月4日	青少年センター	アンケート結果は、 97.9%の方から「大変良 かった」「良かった」と 回答があり、観覧者の高 い満足度に繋げることが できた。	重点施策 1、4

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
かながわ民俗芸 能祭	県内各地で活動中の県 民俗芸能保存協会加盟 団体等が一堂に介し て、民俗伝統芸能を披 露した。	地域に暮らす人々によ り受け継がれてきた踊 りや芝居をまとめて鑑 賞できるよう、県内6 市町の伝統芸能を紹介 した。	376人	2019年12月 1 日	はまぎんホール ヴィアマーレ	—	重点施策 1、4
神奈川県文化芸 術活動団体事業 補助金	県内の文化芸術活動団 体が行う事業に対し て、公募により補助金 を交付した。	平成30年度から、「伝 統芸能枠」「青少年 枠」「高齢者枠」、 「障がい者枠」を設 け、門戸を広げて募集 を行った。	要望団体数：52件 助成団体数：38件 助成金交付額： 8,550千円	—	—	—	重点施策 1、4
マグカル推進事 業補助金	神奈川文化プログラ ムの核となる事業を実 施する団体から企画案 を公募し、補助金を交 付した。	創設2年目に当たり、 より丁寧な広報を行っ た。	要望団体数：30件 助成団体数：9件 助成金交付額： 17,604千円	—	—	—	重点施策 1、4
指定文化財の所 有・保持者に対 する情報提供	指定文化財の所有・保 持者に対する周知や神 奈川県文化財保存活用 大綱を作成し、掲載を 行った。	—	—	—	—	所属トップページのペー ジビュー数は3,024件で あった。	
指定文化財保存 修理等補助金	指定文化財等の保存修 理等に対して、補助金 を交付し、文化財の保 存活用を図った。	—	・有形文化財保存修 理等(20件) ・記念物等保存修理 等(8件) ・民俗文化財保存修 理等(12件) 合計40件	—	—	—	
県立金沢文庫に おける文化財の 管理	2万点を超える国宝・ 重要文化財をはじめと する文化財を適切に管 理した。	日々の温湿度管理等 を行った。	—	—	県立金沢文庫		
県立歴史博物館 における資料の 収集、修繕	神奈川県内の文化と歴史 に主眼を置いた資料を 収集した。 また、収蔵資料の定期 的な修繕を行った。	資料の収集について、 購入は市場の動向を注 視しながら、寄贈コレ クションを補完する関 連資料の収集を行っ た。 また、部門ごとによ りまとめた修繕希望資 料のリストを集約し、順 次修繕を行った。	—	—	県立歴史博物館	【購入実績】 天正18年豊臣秀吉朱印状 など5件5点 【寄贈実績】 ・歴史資料上杉憲実感状 など65件313点 ・美術資料は下村観山の 双六など1件4点 ・民俗資料七五三の着物 など67件68点 【修繕実績】 ・「赤羽刀」、「藤野町 浄瑠璃人形カシラ」	
民俗芸能調査事 業	「吉浜の鹿島踊」を初 め、県内に所在する 「鹿島踊」について記 録保存を行うことによ り、県内の民俗芸能の 保存・継承の基礎資料 とし、調査において当 該芸能の特色を明らか にする。	調査員による現地調査 及び関連文献の調査	調査員13人ほか	現地調査2019年4月 23日ほか57回	湯河原町吉浜、湯河 原町鍛冶屋、小田原 市米神、小田原市根 府川、真鶴町真鶴ほか	保存会代表者が参加した 中間報告会を実施した。	重点施策 1
木製品ものづく り支援事業①	ものづくりに必要な設 備機器等を木製品製造 事業者に貸し出した。	工芸に関する加工、塗 装、加飾技術を有する 職員が相談に乗り、助 言を行う。	機器利用件数：837 件	通年	中小企業支援課小田 原駐在事務所	—	重点施策 1
木製品ものづく り支援事業②	木製品製造事業者から の依頼を受け、新商品 の試作等のための加工 ・製作を行った。	工芸に関する加工、塗 装、加飾技術を有する 職員が相談に乗り、助 言を行う。	依頼加工・試作等件 数：60件	通年	中小企業支援課小田 原駐在事務所	—	重点施策 1
工芸ヤング フォーラム	小田原・箱根地域の木 製品製造業に携わる若 手工芸技術者を対象 に、交流の場を提供し た。	木工技術、産地の歴史 等、幅広い知見があ り、事業者支援の経験 を有する専門家を指 導講師として招く。	述べ参加者数：146 人	2019年4月から2019 年2月まで毎月1 回、計11回開催	中小企業支援課小田 原駐在事務所	—	重点施策 1
(2) 県民の文化芸術活動の充実							
県立金沢文庫に おける講座、講 演会等の開催	特別講演会、月例講 座、解説講座等を開催 した。	展示会の開催に合わせ たものや、地域史に関 わるものを中心に実施 し、横浜市金沢区とも 連携した。	特別講演会：5回、 414人 月例講座：8回、 588人 解説講座等：14回、 793人	特別講演会：2019年 6月29日他 月例講座：2019年4 月29日他 解説講座等：2019年 4月27日他	県立金沢文庫	—	

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019(令和元)年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
県立近代美術館における葉山美術講座、展覧会記念講演会等事業の開催	「ポーランド・ボスター展」等に関連した記念講演会やパフォーマンスイベント、学芸員による専門講座として「葉山美術講座」を開催した。	葉山美術講座については、別途開催している近代美術館入門講座と異なり、専門的な内容を提供して差別化している。また、開催日を水曜日に固定することで、参加者の定着を図った。	展覧会関連講演会：20回、920人 葉山美術講座：10回、184人	展覧会関連講演会：2019年4月27日他 葉山美術講座：2019年4月17日他	県立近代美術館葉山館	—	
県立歴史博物館における各種講座等の開催	県民の生涯学習支援のための特別展開連講座・講演会・体験教室・子ども向け講座等各種催し物を開催した。	多くの方に参加申し込みいただけるよう、各催し物の実施日から約2ヶ月前には募集を開始し、チラシ等も配布することで十分な広報機会と期間を確保した。	一般向け講座他：109回、4,566人 教員向け講座：2回、57人 子ども向け催し物：8回、3,216人 ミュージアムコンサート：2回、109人 県内学校向け学芸員の出張講座：11回、1,248人	特別展「横浜開港160年 横浜浮世絵」記念講演会：2020年5月12日他	県立歴史博物館等	—	
中・高等学校演劇講習会	中・高等学校の生徒と教員を対象に、演出、演技、舞台技術、照明、音響に係る総合的な創造方法を学習する機会を提供した。	講師やプログラムの検討においては、中高生及び中高各専門部会のニーズや時代からの要請を踏まえ、見直しを行っている。	中学生及び教員1,254人 高校生及び教員629人	中学：2019年8月3日～4日 高校：2019年7月30日～31日	青少年センター	講習内容は「部活での活用ができる」など評価も高く、アンケートでも、「大変良かった」「良かった」が合わせて95%以上であるなど、高い満足度を得ている。	
青少年ダンス講習会	青少年、教員等を対象に、ダンス創作の基礎的理論や創作方法の習得を目的に講習会を実施した。	講師やプログラムの検討においては、ダンス専門部のニーズや時代からの要請を踏まえ、見直しを行っている。	478人	2019年8月7日～8日	青少年センター(紅葉坂ホール)	講習内容アンケートで、「大変良かった」「良かった」が平均で93.3%であり、高い満足度を得ている。	
学校演劇交流フェスティバル	学校演劇における創作のスキルアップを目的にした試演とワークショップを実施した。	演劇シーンの第一線で活躍する劇作家、演出家等を講師に活用した。	中学生、高校生、一般253人	2019年9月22日	青少年センター	アンケートによると、「とても良い」「良い」が90.3%と高く評価されている。	
舞台芸術講座	館の所有する楽器を活かした講座や、名作オペラの講座といった、館の設備や事業と連携した講座を開催した。	日本で珍しい、規模の小さいホール設置のオルガンの魅力を多面的に紹介する講座を企画した。	570人	2019年9月28日、2020年2月16日 ※3月7日の回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止	県民ホール本館	—	
演劇指導者のための実践的ワークショップ	中学校・高等学校の演劇部指導者、演劇部等の指導的立場にある生徒等を対象に、音響、照明、舞台のノウハウを学ぶための実践的なワークショップを実施した。	中・高とも発表会(県大会)の会場である紅葉坂ホールの機材、道具を実際に使用し、舞台、照明、音響の基礎的な部分から実践的な内容の講習を行った。	28人	2020年1月13日	青少年センター	アンケートでは、道具の使い方やホールの機器を使用したことに評価があったほか、時間が足りないとの声もあった。	
青少年の舞台表現のためのスキルアップクラス	中高生向けの3つの先端的なワークショッププログラム(映像、舞台美術、ダンス振付)を実施し、青少年による演劇・ダンスの創造活動の発展向上に資する。		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	—	—	—	
K A A Tキッズ・プログラム2019	「キッズ・サマー・パーティー2019 in KAAT高原キャンプ場」など、子ども向けの演劇、ミュージカルなどをKAAT神奈川芸術劇場のほか、他県の劇場等で上演した。	親子チケットや子ども料金の設定など、手ごろな価格で観覧しやすいよう工夫した。	3,981人	ゴールデンウィーク期間や夏休み期間32公演	K A A T大スタジオ、高知市文化プラザかるぼーとほか	—	
オープンシアター2019 東京バレエ団 はじめての『白鳥の湖』	子供向けバレエを上演した。	親子チケットや子ども料金の設定など、手ごろな価格で観覧しやすいよう工夫した。	2,380人	2019年6月2日(2回)	県民ホール本館	バリアフリー推進の観点から、手話ワークショップや外国語対応案内係の配置などを行った。	
ボローニャ歌劇場『セヴィリア』の理髮師	ボローニャ歌劇場から、スタッフとキャストを呼び、共催事業としてオペラを上演した。	2017～2018年度の舞台機構の改修の結果を生かした海外招聘が実現した。	1,236人	2019年6月22日	県民ホール本館	—	

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
英国ロイヤル・バレエ団 2019日本公演(ロイヤル・ガラ)	英国から、スタッフとキャストを呼び、共催事業としてガラ形式のバレエを上演した。	2017～2018年度の舞台機構の改修の結果を生かした海外招聘が実現した。	4,274人	2019年6月29日～30日	県民ホール本館	—	
青少年芸術劇場	青少年の舞台芸術に対する理解を深め、教養の向上を通じて豊かな人間性を育むことを目的に、青少年向けの鑑賞会を実施した。	年少者向けの作品上演に実績のあるNPO法人と共同し、質の高い上演作品を選定することができた。また、子どもたちが演劇鑑賞に興味を持つよう、開場前にワークショップを実施した。	999人	2019年7月13日～14日	青少年センター	—	
(再)歌舞伎鑑賞教室	県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を盛り上げるために、青少年・一般県民を対象に、歌舞伎を上演した。	実際に公演で使われる歌舞伎の小道具をホワイエで展示し、自由に体験できるコーナーを設けた。	1,533人	2019年7月26日～27日(4回)	青少年センター	アンケート結果は、4公演を通して「大変良かった」「良かった」を合わせると96.6%にのぼった。	
青少年ダンス鑑賞会	青少年の舞台芸術に対する理解を深め、教養の向上を通じて豊かな人間性を育むことを目的に、青少年向けの鑑賞会を実施した。	ソロでの映像を使った公演と6人でお芝居も取り入れたダンスの公演企画した。	247人	2019年8月8日	青少年センター	アンケートで講師の演技のレベルの高さに感嘆する声が多く、集計結果は、「とても良かった」「良かった」が92.7%であった。	
英国ロイヤル・オペラ2019日本公演『オテロ』	英国から、スタッフとキャストを呼び、共催事業としてヴェルディの傑作オペラを上演した。	2017～2018年度の舞台機構の改修の結果を生かした海外招聘が実現した。	3,065人	2019年9月14日、16日	県民ホール本館	—	
英国ロイヤル・オペラ2019日本公演『ファウスト』	英国から、スタッフとキャストを呼び、共催事業としてグノーの傑作オペラを上演した。	2017～2018年度の舞台機構の改修の結果を生かした海外招聘が実現した。	1,984人	2019年9月22日	県民ホール本館	—	
神奈川県民ホール・オペラシリーズ2019 グランドオペラ共同制作 オペラ『カルメン』	日本の4つの劇場が共同制作したオペラ『カルメン』を上演した。	2007年度から継続している国内公共劇場とのネットワークを生かし、共同制作先を選定した。	3,292人	2019年10月19日～20日	県民ホール本館	文化庁による共同制作補助金に採択され、約73,000千円の外部資金を得て実施した。	
(再)人形浄瑠璃文楽	県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を盛り上げるために、青少年・一般県民を対象に、人形浄瑠璃文楽を上演した。	青少年の参加者増を狙って、文楽・人形浄瑠璃クラブがある学校等の生徒を招待した。	925人	2019年10月13日(2回)	青少年センター	アンケート結果は、「大変良かった」「良かった」と回答した方が、星が98.9%、夜が100%と、全体で99.5%を占めており大変好評であった。	
青少年対象演劇鑑賞会／おどる童話「AZUKI」	青少年に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供し、情操豊で健全な青少年の育成を図ることを目的に、演劇やダンスの鑑賞会を実施した。	青少年の共感を得やすい30代以下の若手演出家の作品や、青少年に特に人気の高いダンスの要素を取り入れた作品を取り上げた。	446人	2019年10月17日～20日(5回)	青少年センター	アンケート結果で「大変良かった」、「良かった」が合わせて100%であった。	
世界文化交流プロジェクト	ラグビーワールドカップ2019™及び東京2020大会の機会をとらえ、世界的に有名な演劇を上演した。	日本とフィンランドの外交関係樹立100周年を記念し、「VORTEX」を、ベトナムとの演劇による交流を促進することを目的に「ワーニャ伯父さん」を公演した。	1,329人	「VORTEX」(3公演):2019年10月25日～27日 「ワーニャ伯父さん」(1公演):2019年11月26日	「VORTEX」:KAAT神奈川芸術劇場 「ワーニャ伯父さん」:横浜市区民文化センターテアトルフォンテ	—	
(再)かながわこども民俗芸能フェスティバル〜れとろびーと2019〜	地域で継承されている民俗芸能を県民に紹介することで、伝統文化への理解を深め、伝統文化の継承、発展への機運を醸成するとともに、後継者育成を支援するためのイベントを開催した。	県内で伝承されている2種類の人形芝居の継承活動に着目し、ホールでの公演機会を提供することで、地域の伝統芸能の継承に取り組む子ども・青少年を支援した。	396人	2019年11月4日	青少年センター	アンケート結果は、97.9%の方から「大変良かった」「良かった」と回答があり、観覧者の高い満足度に繋げることができた。	
ポーランド国立ワルシャワ室内歌劇場 オペラ『フィガロの結婚』	ポーランドから、スタッフとキャストを呼び、共催事業としてオペラを上演した。	2017～2018年度の舞台機構の改修の結果を生かした海外招聘が実現した。	779人	2019年11月4日	県民ホール本館	—	

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の取組実績

2019（令和元）年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再)かながわの太鼓	神奈川県太鼓連合加盟団体が一堂に会し、県外の団体も参加して創作太鼓演奏を披露した。	ジュニアコンクール神奈川県優勝1団体等若い世代も参加した。	入場者数 620人	2019年11月10日	青少年センター紅葉坂ホール	—	
青少年対象演劇鑑賞会／ダンス体鑑！	青少年に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供し、情操豊で健全な青少年の育成を図ることを目的に、演劇やダンスの鑑賞会を実施した。	青少年の共感を得やすい30代以下の若手演出家の作品や、青少年に特に人気の高いダンスの要素を取り入れた作品を取り上げた。	176人	2020年1月11日～12日	青少年センター	アンケート結果で「大変良かった」、「良かった」が合わせて100%であった。	
寄宿生活塾 はじめ塾×東京デスロック『Anti Human Education II ～TEENS Edit. ～』	青少年を取り巻く不登校等の心の課題に対し舞台芸術の力が解決の糸口の1つとなる可能性を提示することを目的とした公演を実施した。		出演者19人 ※公演は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	成果発表会：2020年2月28日（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公演は中止とし、関係者向けに成果発表会を実施）	青少年センター スタジオHIKARI	一般財団法人地域創造が全国の自治体と公立文化施設向けに発行する月刊誌「地域創造レター」に先進事例として紹介された。	
県民ホール本館での公演事業の実施	「神奈川県民ホール・オペラ・シリーズ2019」など県民ホール本館における主催・共催・提携公演を実施した。	施設運営担当と連携し、利用日程の調整や当日運営を行った。	59,382人	通年 55公演 6 展覧会	県民ホール本館ほか	—	
K A A T 神奈川芸術劇場での公演事業の実施	「ドクター・ホフマンのサナトリウム～カプ力第4の長編～」など新たな舞台芸術作品の創造や新作公演を実施し、県外公演も行った。	国内外の優れた制作者との共同制作公演に積極的に取り組み、施設の特徴を生かした舞台芸術の創造・発信を行った。	58,276人	通年 7 演目122公演	K A A T 神奈川芸術劇場ホール又は大スタジオ、兵庫県立芸術文化センター、北九州芸術劇場ほか	—	
音楽堂での公演事業の実施	「音楽堂ヴィルトゥオーゾ・シリーズ」など、県立音楽堂における主催・共催・提携公演を実施した。	音楽堂初登場の演奏家や日本初演作品等に重点を置き全国的にも注目されるレベルの高い公演企画の実施に留意した。	27,168人	通年 37公演	県立音楽堂ほか	公演本体及び関連企画において横浜市施設、鎌倉文学館、野毛、黄金町等地域の文化拠点との連携を実現できた。	
地芝居2020	青少年・一般県民を対象に、県内で地芝居と伝統芸能を継承する団体の活動成果を披露した。		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		青少年センター	—	
県立金沢文庫における普及啓発の実施	金沢文庫で開催する展覧会や関連する講座等のイベントについて、金沢文庫HPや地域の情報誌、美術館・博物館関係の雑誌で展覧会の紹介を行った。	各雑誌に掲載された展覧会の紹介記事では展覧会の目玉となる作品を紹介し、展覧会の魅力やみどころを伝えられるよう発信した。	—	—	—	HP閲覧件数：120,730件	
県立金沢文庫における展覧会の開催	「いろいろとりどり」や「浄土宗七祖聖図と関連浄土教」等の特別展4回を実施した。	金沢文庫が管理する文化財に加えて、それと関連する外部の文化財の借用を行った。	入館者数：23,128人	特別展「いろいろとりどり」：2019年3月15日～年5月12日他	県立金沢文庫	—	
県立近代美術館における普及啓発の実施	広報誌『たいせつな風景』を発行し、美術館活動の周知に努めた。また、近代美術館ウェブサイトを通して、開催する展覧会の情報を広く県民に発信した。	広報誌では、内容を充実させるべく、著名な執筆者に原稿を依頼し、ウェブサイトでは、展覧会開催前に代表的な出品作品の画像を含む情報を提供した。	—	—	—	広報紙：1回（2020年2月29日発行） ウェブサイト展覧会詳細ページ：展覧会開幕に合わせて、年4回程度更新	
県立近代美術館における展覧会の開催、普及活動事業の実施	葉山館では「ポーランド・ポスター展」をはじめとした企画展とコレクション展、鎌倉別館では企画展を実施した。また、展覧会に関連したワークショップやギャラリートークなどを展開した。	展覧会については、情操教育に資するための企画を実施した。また、教育普及活動については、鑑賞機会の充実を目的として、ワークショップなどの多様な形態の活動を実践した。	入館者数：99,451人 教育普及活動（ワークショップ）：95回、2,039人 教育普及活動（ギャラリートーク）：54回、1,510人	展覧会：2019年4月6日～6月23日他 教育普及活動：2019年9月29日他	県立近代美術館葉山館、鎌倉別館	—	
県立歴史博物館における普及啓発の実施	HP（Twitter含む）を活用した情報提供や刊行物、マスメディア（紙・電波媒体、ネット）による情報発信を行った。	限られた予算の中、無料掲載可能な県の広報媒体や外部WEB媒体への広報依頼、新聞社等マスコミの取材を誘引するためのきめ細やかな情報の提供に努めた。	—	—	—	794件 【内訳】 Twitter：44件 特別展等チラシ・ポスター：6件 催し物のお知らせ：2件 その他：442件	

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
県立歴史博物館 における資料の 展示	常設展では、各テーマごとに年間を通して展示替えを行った。	展示替えに際しては、トビックス展示を加えるなどの工夫を行った。	常設展入館者数：25,618人	展示替えは資料整理休館日を中心に実施。	県立歴史博物館	年間を通じ1,275件の資料の展示替えを行った。	
県立歴史博物館 における特別展 の実施	「横浜開港160年 横浜浮世絵」展などの特別展を実施した。	「ポケット学芸員」を活用した音声・文字による展示ガイドを行った。また、関連事業として講演会や展示解説を積極的に行った。	35,151人	通年 4回開催	県立歴史博物館	—	
かなぶんキッズ クラブ(紙芝 居、映画会、絵 本の読み聞かせ 等)	夏休みと春休みの子どもの長期休み機関に合わせて「かなぶんキッズクラブ」として紙芝居、映画会、絵本の読み聞かせなどを実施した。	特に夏休み期間のイベントは、企画展のテーマに合わせた内容でも開催した。	404人	①紙芝居がはじまるよ！：2019年8月8日 ②子ども映画会：2019年8月21日～22日 ③絵本であそぼ！：2019年8月24日	神奈川近代文学館	県内で長い活動歴があるよこはま文庫の会、横浜紙芝居普及会との連携を深めることができた。	
県立近代文学館 におけるギャラ リートーク	企画展等に合わせて展示説明会を開催した。	展覧会の内容を資料画像等を用いて解説し、観覧者に対してより深い理解を促した。	677人	企画展等に合わせて25回実施	神奈川近代文学館	観覧者が、展示担当者へ直接質問する場ともなった。	
県立近代文学館 における講演会	神奈川近代文学館のホール等の会場を利用して、企画展や特別展に即した内容の講演会を開催した。	第一線で活躍する作家や研究者を招いて講演会を実施することができた。	1,609人	企画展等に合わせて7回実施	神奈川近代文学館	講演録の雑誌掲載、作家と直接触れ合えるサイン会などの実施により読書意欲の増進を図ることができた。	
県立近代文学館 における朗読 会、上映会等	神奈川近代文学館のホール等の会場を利用して、朗読会や上映会等のイベントを実施した。	新たな客層を獲得するため、著名な俳優の出演や文学の枠を超えたイベントなどを実施した。	1,293人	企画展等に合わせて7回実施	神奈川近代文学館	著名人の出演により展覧会への注目が集まった。他分野のファン層が文学館に足を運んだ。	
県立近代文学館 における特別 展・企画展	各作家の所蔵資料等を活用した特別展・企画展を実施した。	所蔵資料等を活用し、作家の魅力が伝わる展示を行った。	45,949人	通年 6回開催	神奈川近代文学館	展覧会を機に新たな資料が寄贈された。他分野とのコラボレーションが集客につながった。	
野外コンサート	県民の文化芸術鑑賞機会の充実や発表機会の場の提供を目的として、正面玄関横のテラスをステージとしたコンサートを実施した。	5月、6月、11月という穏やかな気候の時期に実施することで誘客を図った。	430人	2019年5月19日、6月8日、11月17日	かながわアートホール	—	
三ツ橋敬子の夏 休みオーケス トラ！みんな でピカピカ☆編	コンサートのほか、音楽体験企画を実施。その他、アウトリーチで中学校を訪問した。	種々のワークショップ等を通じて、様々な形で音楽に触れられるように工夫した。	1,700人 コンサート：789人 音楽体験企画：410人 アウトリーチ：501人	コンサート：2019年8月17日 音楽体験企画：2019年8月14日～17日 アウトリーチ：2019年5月28日	コンサート及び音楽体験企画：県立音楽堂 アウトリーチ：大磯町立大磯中学校	—	
第35回かながわ 音楽コンクール	神奈川県ゆかりの才能ある若手演奏者を紹介し、育成を図る目的でコンクールを実施した。	入賞者を対象としたクリスタルコンサート、上位入賞者によるトップコンサートを実施し、上位入賞者はオーケストラと共演した。	参加者数：937人 鑑賞者数：延べ2,800人 (クリスタルコンサート及びトップコンサートの鑑賞者数：1,040人)	クリスタルコンサート：2019年8月23日 トップコンサート：2020年10月13日	クリスタルコンサート：横浜みなとみらいホール 小ホール トップコンサート：神奈川県立音楽堂	—	
(再)神奈川伝 統・映像ア ートウォーク	神奈川県庁本庁舎を丸ごと利用し、神奈川県にゆかりのある伝統芸能から、最先端のメディアアートなどの現代芸術まで様々な文化を一度に体験できる屋内イベントを実施した。	庁舎公開日及びラグビーワールドカップ2019 [®] の準決勝日に実施したことで、誘客に効果的であった。	2,519人	2019年10月26日～27日	神奈川県庁本庁舎	【ワークショップ等の参加者数：計210人】 ・音楽ワークショップ：40人 ・日本舞踊ワークショップ：44人 ・生け花ワークショップ：23人 ・寄木細工のコースター製作などの体験ワークショップ：53人 ・相模人形芝居中座による人形ワークショップ：50人	

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再)カナガワ リ・古典in秦野	秦野市を舞台に、県内の古典や各地の貴重な伝統文化の魅力・価値を再発見し、継承への機運醸成を目指し、民俗芸能フェスティバル事業を開催した。	県にゆかりのある伝統芸能をデジタル映像と組み合わせることで、今まで馴染みのなかった方にも、現代を生きる文化芸術として「再(Re)リ」発信することができた。	1,318人	2019年10月20日	クアーズテック秦野カルチャーホール(秦野市文化会館)	当該事業、周辺イベント、ともに地域と連携して実施したことで、地域のにぎわい創出に寄与した。	
DVD鑑賞会	月に一度、ホールにて、かながわアートホールが所蔵する音源、映像を上演した。	広報に見どころ等を掲載し、映画への興味が湧くよう工夫した。	1,998人	2019年4月13日、5月12日、6月22日、7月28日、8月18日、9月29日、10月13日、11月9日、12月25日、2020年1月26日、2月15日 ※3月15日の回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止	かながわアートホール	—	
音楽堂における 芸術文化鑑賞普及事業	ワークショップ、アウトリーチなどを実施した。		計4,555人	通年 7事業4演目 5公演23企画45回	県立音楽堂ほか	子ども達が多様な音楽の鑑賞や、自ら様々な楽器を触り演奏する機会を設けることが出来た。	
中学校創作劇発表会	中学校を対象に、創作劇の発表会を実施した。		1,345人	2019年8月2、3日	青少年センター	日程2日目に、朗読ボランティアによる被爆体験記朗読会を実施した。	
青少年のための 芝居塾	県内の地域・歴史等を取り入れた演劇・ミュージカルを創作し、公募した青少年により上演した。	数年おきに担当劇団を替えるなど、一般の青少年が参加しやすいように考慮している。	514人	2019年8月23日～28日	青少年センター スタジオ「HIKARI」	演劇経験のない子が参加したり、何年か連続して参加する塾生がいるなど、芝居塾に参加することの魅力が広がっている。	
青少年ダンス発表会	表現芸術の充実と向上を図ることを目的に創作舞踊発表会を実施した。	夏の講習会で受けた刺激を日頃の活動に活かした。	1,873人	2019年11月3日	青少年センター(紅葉坂ホール)	—	
神奈川フィル・ ジュニアオーケ ストラ2019	小学4年生～高校3年生の子どもたちがアートホールに集い、神奈川フィル団員の指導を経て神奈川フィルと共演した。	受講生が楽器ごとに分かれて行うパート練習や弦楽器、管楽器それぞれの合奏練習を行った。	受講生：45人 ゲネプロ入場者：100人 修了公演入場者：208人	開講式：2019年11月10日 練習：2019年12月1日、15日、26日、27日、2020年1月4日 修了公演：2020年1月5日	かながわアートホール	—	
小・中・高等学校 演劇発表会	小・中・高等学校を対象に、演劇の発表会を実施した。	—	小学生1,000人 中学生1,586人 高校生1,541人	小学校：2020年2月15日 中学校：2019年12月7日～8日 高校：2019年11月16日～17日	青少年センター	—	
マグル・ハイ スクール・演劇 フェスタ	県高校演劇発表会にて最優秀賞等高い評価を得た作品を上演した。	関東大会出場に向けて、県大会からの舞台装置の変更・見直しなど、作品のブラッシュアップに向けた相談に乗った。	316人	2019年12月13日～15日	青少年センター スタジオ「HIKARI」	前年度の全国大会で初めて最優秀賞を受賞するなど、着実に実績が上がっている。	
かながわ児童劇 グループ交流会 (かながわ人形劇 フェスティバル)	地域で人形劇などの児童文化活動を行っているアマチュアグループに活動成果の発表と相互交流の場を提供するとともに、子どもたちに人形劇等の鑑賞の機会を提供した。	近年の出演者、観覧者の申込状況や出演者からの意見を踏まえ、事業の実施内容について検討した。	212人	2020年2月22日～23日	青少年センター スタジオH I K A R I	—	
かながわミュー ジカルアワード 2020	神奈川の地域色豊かなミュージカルの表彰・公演事業を実施し、県内のミュージカル人材の育成及びレベルアップを図る。	神奈川県にゆかりのある題材のミュージカルを公募し、地域色を出した。	新型コロナウイルスの感染拡大により、公演中止。	アワード公演：2020年3月15日	青少年センター 紅葉坂ホール	—	

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
かながわ短編演劇アワード2020	短編演劇及び短編戯曲の全国公募によるコンペティションの開催した。	短編戯曲において、作品テーマをSDGsとした。また、最終選考に残った戯曲をweb公開することで、より多くの方に作品に触れてもらう機会を設けた。	【応募数】 短編演劇：65団体 短編戯曲：59作品 【来場者数】 本戦：新型コロナウイルス感染症対策の無観客（ライブ配信）で開催 22席飛翔枠選抜大会（県内高校生枠選抜大会）：272人	本戦：2020年3月21日～22日 22席飛翔枠選抜大会（県内高校生枠選抜大会）：2020年1月12日	本戦：KAAT神奈川芸術劇場 22席飛翔枠選抜大会（県内高校生枠選抜大会）：県立神奈川総合高等学校	—	
マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー	マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミーの核となるような、専門的な舞台芸術人材を育成するため、実践的な歌・ダンス・演技のレッスンを行った。	常任の講師に加え、特別講師4名を迎えレッスンをを行った。	在籍者数：48人 鑑賞者数：1,095人	練習日：週2日 計87日（原則、火曜日と木曜日） 成果発表会：2019年4月7日（2公演） 本公演：2019年8月15日～18日（6公演）	青少年センター	—	
マグカルシアター等	主に若手の舞台芸術団体や個人に青少年センター スタジオ「HIKARI」を公演場所として会場・設備・備品を無料で提供した。	多くの文化芸術団体等の公演の場を広げるため、公演枠数を20枠から36枠に増加した。	6,509人	2019年4月18日～2020年3月15日	青少年センター スタジオ「HIKARI」	スタジオを小劇場仕様としたことから、出演団体の種別や東京所在の団体が増えるなど、すそ野が広がっている。	
マグカル開放区	歩行者天国となった県庁前の日本大通りを活用し、音楽、ダンス等のジャンルを問わず自由に発表できる場を提供することにより、日本大通りの活性化を図るとともに、県民の文化芸術活動を後押しした。	他市の公道で実施する出張開放区や企画開放区の実施など随時工夫を凝らした展開を行った。	約5,000人/1日	近隣にてイベントが開催されない日曜日	県庁前日本大通りほか	—	
第55回神奈川県美術展	全国公募による美術展を実施し、作品発表の機会を提供し創作活動の支援を図った。	応募要項・展覧会チラシのデザインを一新し、広報の強化に努めた。	応募点数：1,085点 応募人数：728人 入選者数：345人 入賞者数：40人 入場者数：4,448人	応募作品搬入：2019年7月6日、7日 展覧会：2019年8月25日～9月19日（うち2日休・開催24日間）	神奈川県民ホール ギャラリー	—	
マグカルシアター出演団体等の上演作品制作支援事業	マグカルシアターに出演が決定した団体等を対象に、演劇資料室や稽古場の提供を通して作品制作に関する課題解決を支援し、上演作品の質的向上を図った。		研修室利用者 63団体 2,338人	通年	青少年センター	—	
神奈川県文化芸術活動団体事業補助金	県内の文化芸術活動団体が行う事業に対して、公募により補助金を交付した。	平成30年度から、「伝統芸能枠」「青少年枠」「高齢者枠」、「障がい者枠」を設け、門戸を広げて募集を行った。	要望団体数：52件 助成団体数：38件 助成金交付額：8,550千円	—	—	—	
Cultural Programs in Kanagawa 2019	国内観光客及び訪日観光客向けに、県内の魅力的な文化芸術コンテンツやラグビーワールドカップ2019の特集を掲載した日英併記の冊子を作成した。	ラグビーワールドカップ2019の特集を入れることで、ラグビーファンの目にも留まりやすくなった。また、旅行者が持ち帰りたくなるよう、表紙に厚く高級感のある紙を使用した。	発行部数3万部	8月（年1回発行）	空港、駅、外国人向け観光案内所、ホテル等で配布	—	
イベントカレンダー	県内の文化イベント情報をカレンダー形式で掲載する日英併記の情報誌「マグカル・イベントカレンダー」を作成した。	毎月特集ページを設け、県事業のPRを行った。	発行部数56万部（各号14万部）	年4回発行 5～7月号 8～10月号 11～1月号 2～4月号	関東圏の文化施設、駅、劇場、ホテル等で配布	—	
神奈川芸術プレス	冊子を発行・配布することで、公演情報の周知、県内の文化情報等を掲載した。	各館公演のアーティスト情報などをバランスよく取り上げるとともに県域の文化情報についても紹介した。	年間27万部	奇数月15日、年6回発行	—	—	

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
マグカル・ドット・ネット	県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」において、県内のイベント情報をリアルタイムで発信するほか、文化芸術に関する記事を作成し、ツイッター等のSNSにおいても情報発信を行った。	イベント掲載数を増やしたほか、特集やコラムの作成を行い、内容の充実を図った。訪日外国人向け特集記事を作成し、多言語翻訳を行うとともに、国内外向けのインターネット広告を通年で展開した。	PV(ページビュー)数 398,712	通年	—	—	
(再)神奈川近代文学館におけるホームページ、SNSの活用	SNSの積極的な活用やコミックとのコラボレーションによりホームページ利用のアクセス数を高く維持し、広く広報周知活動を行った。	展覧会紹介、資料紹介等に加え、誕生日命日などにもSNSで発信するなど、日々新しい話題を提供している。	ホームページアクセス数：260,988件 上記のうち、蔵書検索アクセス数：74,701件	通年	神奈川近代文学館 ホームページ及びSNS	Twitterフォロワー数が647人増となった。	—
県立金沢文庫における情報提供の実施	金沢文庫で開催する展覧会や講座などのイベントについて、金沢文庫HPやTwitterで広報を行った。	展覧会の目玉となる作品を定期的にTwitterで紹介し、展覧会の魅力を伝えるよう発信した。	HP閲覧件数：120,730件	通年	—	—	
県立近代美術館における情報提供の実施	プレスリリースを報道関係者にメールで配信した。また、Twitter上で美術館の日々の活動を発信した。	各々の電子媒体によって、対象に合わせた内容を発信した。	メール配信数：9回 Twitter発信数：227回	通年	—	—	
県立歴史博物館における情報提供の実施	HP(Twitter含む)を活用した情報提供や刊行物、マスメディア(紙・電波媒体、ネット)による情報発信を行った。	限られた予算の中、無料掲載可能な県の広報媒体や外部WEB媒体への広報依頼、新聞社等マスコミの取材を誘引するためのきめ細やかな情報の提供に努めた。	794件 【内訳】 Twitter：44件 特別展等チラシ・ポスター：6件 催し物のお知らせ：2件 その他：442件	通年	—	—	
(3) 芸術家等の育成等に関する支援等							
神奈川文化賞・未来賞表彰事業	神奈川県在住、在職又は神奈川に深いゆかりのある者で、神奈川の文化の向上発展に尽力し、その功績顕著な個人又は団体に対して「神奈川文化賞」を贈呈した。 2001年度に、神奈川文化賞の第50回を記念し、神奈川の文化の向上発展に貢献することが大いに期待される若い世代に贈呈するために「未来賞」を創設し、贈呈した。	神奈川フィルによる祝賀演奏を実施し、入場無料で一般観覧者を募ることで、県全体として功績を称える雰囲気醸成した。また、県民に対し、文化に触れる機会を提供した。	観覧者1,288人	2019年11月3日	神奈川県民ホール本館	受賞者 神奈川文化賞4人、未来賞2人	
KAAT神奈川芸術劇場における人材育成事業	舞台技術専門スタッフを対象にした実践的な講座を行うとともに、劇場運営や舞台技術に関心のある学生等をインターンとして受け入れ、業務体験等を実施した。	「人をつくる」創造型劇場として、若手演出家、舞台技術専門スタッフ、大学生など、劇場での舞台芸術に関わる多様なジャンルの人材を育成に寄与した。	34人	2019年7月～2020年3月	K A A T 神奈川芸術劇場	—	重点施策 2
県民ホール本館における人材育成事業	劇場運営のマネージメントや公演制作に関する講座や現場実習を開催した。	講座では、公共文化施設において障がいを持つ方への的確な対応方法について講義を行い、好評を得た。	32人	2019年9月～2020年2月	県民ホール本館	—	重点施策 2
(再)第35回かながわ音楽コンクール	神奈川県ゆかりの才能ある若手演奏者を紹介し、育成を図る目的でコンクールを実施した。	入賞者を対象としたクリスタルコンサート、上位入賞者によるトップコンサートを実施し、上位入賞者はオーケストラと共演した。	参加者数：937人 鑑賞者数：延べ2,800人 (クリスタルコンサート及びトップコンサート)の鑑賞者数：1,040人	クリスタルコンサート：2019年8月23日 トップコンサート：2020年10月13日	クリスタルコンサート：横浜みなとみらいホール 小ホール トップコンサート：神奈川県立音楽堂	—	重点施策 2
(再)マグカルシアター等	若手の舞台芸術団体や個人に青少年センタースタジオ「HIKARI」を公演場所として会場・設備・備品を無料で提供した。	多くの文化芸術団体等の公演の場を広げるため、公演枠数を20枠から36枠に増加した。	6,509人	2019年4月18日～2020年3月15日	青少年センタースタジオ「HIKARI」	スタジオを小劇場仕様としたことから、出演団体の種別や東京所在の団体が増えるなど、すそ野が広がっている。	重点施策 2

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
アーティスト・イン・レジデンス推進事業	アートによる国際交流・地域間交流を目的に地域のアート団体と連携して「アーティスト・イン・レジデンス推進事業」を展開した。	2018年度募集では、スケジュール上、4月～5月までのイベントを採択することができなかったため、今年度は募集期間を前倒しした。	2,049人	2019年5月～10月3事業を実施	藤沢市(旧稲元屋、関次商店、旧石曾根商店、有田家、交流館他)、若葉町ウォーフ、高架下スタジオSite-A、ギャラリー	—	重点施策2
(再)青少年のための芝居塾	県内の地域・歴史等を取り入れた演劇・ミュージカルを創作し、公募した青少年により上演した。	数年おきに担当劇団を替えるなど、一般の青少年が参加しやすいように考慮している。	514人	2019年8月23日～28日	青少年センター スタジオ「HIKARI」	演劇経験のない子が参加したり、何年か連続して参加する塾生がいるなど、芝居塾に参加することの魅力が広がっている。	重点施策2
(再)第55回神奈川県美術展	全国公募による美術展を実施し、作品発表の機会を提供し創作活動の支援を図った。	応募要項・展覧会チラシのデザインを一新し、広報の強化に努めた。	応募点数：1,085点 応募人数：728人 入選者数：345人 入賞者数：40人 入場者数：4,448人	応募作品搬入：2019年7月6日～7日 展覧会：2019年8月25日～9月19日(うち2日休・開催24日間)	神奈川県民ホール ギャラリー	—	重点施策2
フレッシュ・コンサート	次世代を担うと期待される神奈川県ゆかりの才能ある若手奏者を広く県民に紹介し、オーケストラとの共演を通じてその才能の一層の育成を図った。	クラシックの演奏者だけでなく、和楽器の演奏者やオペラ歌手なども紹介した。	722人	2020年1月9日	横浜みなとみらいホール	—	重点施策2
(4) 文化芸術団体の育成等							
(再)神奈川県文化芸術活動団体事業補助金	県内の文化芸術活動団体が行う事業に対して、公募により補助金を交付した。	平成30年度から、「伝統芸能枠」「青少年枠」「高齢者枠」「障がい者枠」を設け、門戸を広げて募集を行った。	要望団体数：52件 助成団体数：38件 助成金交付額：8,550千円	—	—	—	
(再)マグカル推進事業補助金	神奈川文化プログラムの核となる事業を実施する団体から企画案を公募し、補助金を交付した。	創設2年目に当たり、より丁寧な広報を行った。	要望団体数：30件 助成団体数：9件 助成金交付額：17,604千円	—	—	—	
文化芸術団体の活動に対する後援	文化芸術団体等が主催する、県内で実施する事業について、県の文化芸術の振興に寄与すると認められるものに、神奈川県の後援名義の使用を承認した。	—	後援名義の使用承認実績：153件	—	—	—	
神奈川文化プログラム認証制度	県内で実施する事業・活動について、一定の要件を満たすものを神奈川県文化プログラムとして認証した。	県内市町村や文化芸術活動団体、文化施設等に積極的に周知を行い、より多くの事業を認証することができた。	神奈川文化プログラム認証制度：認証件数969件	—	—	—	重点施策5
(再)相模人形芝居学校交流ワークショップ	高等学校等において、伝統芸能への関心を喚起し、団体の活動の紹介や上演等を行うワークショップを行った。	—	1,013人	2019年5月21日、10月1日、12月7日、2020年1月30日	①座間、南足柄、平塚、海老名の4会場	—	重点施策5
(再)歌舞伎鑑賞教室	県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を盛り上げるために、青少年・一般県民を対象に、歌舞伎を上演した。	実際に公演で使われる歌舞伎の小道具をホワイエで展示し、自由に体験できるコーナーを設けた。	1,533人	2019年7月26日～27日(4回)	青少年センター	アンケート結果は、4公演を通算して「大変良かった」「良かった」を合わせると96.6%にのぼった。	重点施策5
(再)日本舞踊に学ぶ'和'の作法	小・中学生を対象に、着物の着方の練習、日本舞踊等を体験するワークショップを行った。	参加料を無料にすることによって参加しやすくなり、応募者数を増やす努力を行った。	85人	2019年7月26日～27日、8月3日～4日、8月10日～11日、8月13日～14日	横須賀、平塚、南足柄、横浜の4会場	アンケートの結果、97.5%の参加者が内容に「満足」と回答した。	重点施策5

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再) 青少年のための芝居塾	県内の地域・歴史等を取り入れた演劇・ミュージカルを創作し、公募した青少年により上演した。	数年おきに担当劇団を替えるなど、一般の青少年が参加しやすいように考慮している。	514人	2019年8月23日～28日	青少年センター スタジオ「HIKARI」	演劇経験のない子が参加したり、何年か連続して参加する塾生がいるなど、芝居塾に参加することの魅力が広がっている。	重点施策 5
(再) 人形浄瑠璃文楽	県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を盛り上げるために、青少年・一般県民を対象に、人形浄瑠璃文楽を上演した。	青少年の参加者増を狙って、文案・人形浄瑠璃クラブがある学校等の生徒を招待した。	925人	2019年10月13日(2回)	青少年センター	アンケート結果は、「大変良かった」「良かった」と回答した方が、星が98.9%、夜が100%と、全体で99.5%を占めており大変好評であった。	重点施策 5
(再) 青少年対象演劇鑑賞会／おどる童話「AZUKI」	青少年に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供し、情操豊で健全な青少年の育成を図ることを目的に、演劇やダンスの鑑賞会を実施した。	青少年の共感を得やすい30代以下の若手演出家の作品や、青少年に特に人気の高いダンスの要素を取り入れた作品を取り上げた。	446人	2019年10月17日～20日(5回)	青少年センター	アンケート結果で「大変良かった」、「良かった」が合わせて100%であった。	重点施策 5
(再) カナガワリ・古典in秦野	秦野市を舞台に、県内の古典や各地の貴重な伝統文化の魅力・価値を再発見し、継承への機運醸成を目指す、民俗芸能フェスティバル事業を開催した。	県にゆかりのある伝統芸能をデジタル映像と組み合わせることで、今まで馴染みのなかった方にも、現代を生きる文化芸術として「再(Reリ)」発信することができた。	1,318人	2019年10月20日	クアーズテック秦野カルチャーホール(秦野市文化会館)	当該事業、周辺イベント、ともに地域と連携して実施したことで、地域のにぎわい創出に寄与した。	重点施策 5
(再) 神奈川伝統・映像アートウォーク	神奈川県庁本庁舎を丸ごと利用し、神奈川県にゆかりのある伝統芸能から、最先端のメディアアートなどの現代芸術まで様々な文化を一度に体験できる屋内イベントを実施した。	庁舎公開日及びラグビーワールドカップ2019 TM (RWC)の準決勝日に実施したことで、誘客に効果的であった。	2,519人	2019年10月26日～27日	神奈川県庁本庁舎	【ワークショップ等の参加者数：計210人】 ・能楽ワークショップ：40人 ・日本舞踊ワークショップ：44人 ・生け花ワークショップ：23人 ・寄木細工のコースター製作などの体験ワークショップ：53人 ・相模人形芝居中座による人形ワークショップ：50人	重点施策 5
浮世絵アートウィーク2019	日本大通りにて日本伝統文化×デジタル技術を融合させたナイトアートイベントを実施した。	ラグビーワールドカップ2019 TM (RWC)の準決勝及び決勝の日を含む期間に開催し、誘客に効果的であった。	13,221人	2019年10月26日～11月3日	日本大通り神奈川県庁前	浮世絵の中に入る体験のできる「北斎VR」が大変好評で、1,076人の方に体験していただくことができた。また全体の来場者のうち3割程度は外国人だった。	重点施策 5
(再) かながわこども民俗芸能フェスティバル～れとろびと2019～	地域で継承されている民俗芸能を県民に紹介することで、伝統文化への理解を深め、伝統文化の継承、発展への機運を醸成するとともに、後継者育成を支援するためのイベントを開催した。	県内で伝承されている2種類の人形芝居の継承活動に着目し、ホールでの公演機会を提供することで、地域の伝統芸能の継承に取り組む子ども・青少年を支援した。	396人	2019年11月4日	青少年センター	アンケート結果は、97.9%の方から「大変良かった」「良かった」と回答があり、観覧者の高い満足度に繋げることができた。	重点施策 5
(再) 青少年対象演劇鑑賞会／ダンス体験!	青少年に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供し、情操豊で健全な青少年の育成を図ることを目的に、演劇やダンスの鑑賞会を実施した。	青少年の共感を得やすい30代以下の若手演出家の作品や、青少年に特に人気の高いダンスの要素を取り入れた作品を取り上げた。	176人	2020年1月11日～12日	青少年センター	アンケート結果で「大変良かった」、「良かった」が合わせて100%であった。	重点施策 5
(再) 寄宿生活塾はじめ塾×東京デスロック『Anti Human Education II ～TEENS Edit.～』	青少年を取り巻く不登校等の心の課題に対し舞台芸術の力が解決の糸口の1つとなる可能性を提示することを目的とした公演を実施した。	—	出演者19人 ※公演は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	成果発表会：2020年2月28日(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公演は中止とし、関係者向けに成果発表会を実施)	青少年センター スタジオHIKARI	一般財団法人地域創造が全国の自治体と公立文化施設向けに発行する月刊誌「地域創造レター」に先進事例として紹介された。	重点施策 5
(再) かながわミュージカルアワード2020	神奈川の地域色豊かなミュージカルの表彰・公演事業を実施し、県内のミュージカル人材の育成及びレベルアップを図る。	神奈川県にゆかりのある題材のミュージカルを公募し、地域色を出した。	新型コロナウイルスの感染拡大により、公演中止。	アワード公演：2020年3月15日	青少年センター 紅葉坂ホール	—	重点施策 5

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再)かながわ短編演劇アワード2020	短編演劇及び短編戯曲の全国公募によるコンペティションを開催した。	短編戯曲において、作品テーマをSDGsとした。また、最終選考に残った戯曲をweb公開することで、より多くの方に作品に触れてもらう機会を設けた。	【応募数】 短編演劇：65団体 短編戯曲：59作品 【来場者数】 本戦：新型コロナウイルス感染症対策の無観客(ライブ配信)で開催 22席飛翔枠選抜大会(県内高校生枠選抜大会)：272人	本戦：2020年3月21日～22日 22席飛翔枠選抜大会(県内高校生枠選抜大会)：2020年1月12日	本戦：KAAT神奈川芸術劇場 22席飛翔枠選抜大会(県内高校生枠選抜大会)：県立神奈川総合高等学校	—	重点施策5
浮世絵カフェ	エンターテインメントレストランを開設し、「和」をテーマとしたデジタル映像の映写と浮世絵を活用したパフォーマンスを行うショーを開催した。	外国人を含めた観光客等の誘客のため、海外でも活躍するパフォーマンス集団白Aにより、プロジェクションマッピング、ダンス等が融合したノンバーバルパフォーマンスを実施した。	1,601人	2019年8月8日～2020年3月	英一番館(神奈川県民ホール内)	世界最大規模の旅行情報に関するウェブサイト「トリップアドバイザー」において、横浜市のナイトライフ部門で145軒中、ロコミ1位を獲得した。	重点施策5
(再)マグカル・パフォーマンス・アカデミー	マグカルの核となるような、専門的な舞台芸術人材を育成するため、実践的な歌・ダンス・演技のレッスンを行った。	常任の講師に加え、特別講師4名を迎えレッスンを行った。	在籍者数：48人 鑑賞者数：1,095人	練習日：週2日 計87日(原則、火曜日と木曜日) 成果発表会：2019年4月7日(2公演) 本公演：2019年8月15日～18日(6公演)	青少年センター	—	重点施策5
(再)マグカルスタジオ等	主に若手の舞台芸術団体や個人に青少年センタースタジオ「HIKARI」を公演場所として会場・設備・備品を無料で提供した。	多くの文化芸術団体等の公演の場を広げるため、公演枠数を20枠から36枠に増加した。	6,509人	2019年4月18日～2020年3月15日	青少年センタースタジオ「HIKARI」	スタジオを小劇場仕様としたことから、出演団体の種別や東京所在の団体が増えるなど、すそ野が広がっている。	重点施策5
(再)かながわの太鼓	神奈川県太鼓連合加盟団体が一堂に会し、県外の団体も参加して創作太鼓演奏を披露した。	ジュニアコンクール神奈川県優勝1団体等若い世代も参加した。	620人	2019年11月10日	青少年センター紅葉坂ホール	—	重点施策5
(再)かながわ民俗芸能祭	県内各地で活動中の県民俗芸能保存協会加盟団体等が一堂に集って、民俗伝統芸能を披露した。	地域に暮らす人々により受け継がれてきた踊りや芝居をまとめて鑑賞できるよう、県内6市町の伝統芸能を紹介した。	376人	2019年12月1日	はまぎんホールヴィアマーレ	—	重点施策5
(再)かながわ児童劇グループ交流会(かながわ人形劇フェスティバル)	地域で人形劇などの児童文化活動を行っているアマチュアグループに活動成果の発表と相互交流の場を提供するとともに、子どもたちに人形劇等の鑑賞の機会を提供した。	近年の出演者、観覧者の申込状況や出演者からの意見を踏まえ、事業の実施内容について検討した。	212人	2020年2月22日～23日	青少年センタースタジオHIKARI	—	重点施策5
共生共創事業	障がい者や高齢者等が出演する公演事業等を実施した。	障がい者や高齢者等が出演する公演事業のほか、シニア劇団の創設やシニアダンス企画の実施など、参加型事業も実施した。	6,947人	2019年5月～2020年3月	県民共済みらいホールほか	公演回数 33回	重点施策5
(再)地芝居2020	青少年・一般県民を対象に、県内で地芝居と伝統芸能を継承する団体の活動成果を披露した。		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		青少年センター	—	重点施策5
(5) 子どもの文化芸術活動の充実							
音楽堂ふれあいアウトリーチ	プロによる即興演奏の鑑賞会やワークショップを実施した。	各学校の状況に合わせて、学校側の希望を取り入れながらミニコンサートを開催した。	137人	2019年7月10日、9月25日	相模原養護学校橋本分教室、みどり養護学校	十分な時間をとって子ども達全員が自ら様々な楽器を触ってみる、演奏する機会も設けることができた。	重点施策2
三ツ橋敬子の夏休みオーケストラ！みんなでピカピカ☆編	コンサートのほか、音楽体験企画を実施。その他、アウトリーチで中学校を訪問した。	種々のワークショップ等を通じて、様々な形で音楽に触れられるように工夫した。	1,700人 コンサート：789人 音楽体験企画：410人 アウトリーチ：501人	コンサート：2019年8月17日 音楽体験企画：2019年8月14日～17日 アウトリーチ：2019年5月28日	コンサート及び音楽体験企画：県立音楽堂 アウトリーチ：大磯町立大磯中学校	—	重点施策2

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の取組実績

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
「子どもたちの音楽芸術体験事業」神奈川フィル・ゆめコンサート	神奈川フィルによる実演指導やオーケストラとの共演を通じ、本物の芸術に触れる機会を提供することにより、子どもたちの芸術を愛する心を育て、豊かな情操を育むことを目的として実施した。	事前にワークショップを行い、オーケストラと共演するための楽器指導を実施した。	973人	2020年1月28日～30日	藤沢市立大道小学校、厚木市立相川小学校、横須賀市立荻野小学校	—	重点施策2
(再)音楽堂における芸術文化鑑賞普及事業	ワークショップ、アウトリーチなどを実施した。	—	計4,555人	通年 7事業4演目5公演23企画45回	県立音楽堂ほか	子ども達が多様な音楽の鑑賞や、自ら様々な楽器を触り演奏する機会を設けることが出来た。	重点施策2
(再)KAATキッズ・プログラム2019	「キッズ・サマー・パーティー2019 in KAAT高原キャンプ場」など、子ども向けの演劇、ミュージカルなどをKAAT神奈川芸術劇場のほか、他県の劇場等で上演した。	親子チケットや子ども料金の設定など、手ごろな価格で観覧しやすいよう工夫した。	3,981人	ゴールデンウィーク期間や夏休み期間32公演	K A A T大スタジオ、高知市文化プラザかるぼーとほか	—	重点施策2
(再)オープンシアター2019 東京バレエ団 はじめての『白鳥の湖』	子供向けバレエを上演した。	親子チケットや子ども料金の設定など、手ごろな価格で観覧しやすいよう工夫した。	2,380人	2019年6月2日(2回)	県民ホール本館	バリアフリー推進の観点から、手話ワークショップや外国語対応案内係の配置などを行った。	重点施策2
(再)青少年芸術劇場	青少年の舞台芸術に対する理解を深め、教養の向上を通じて豊かな人間性を育むことを目的に、青少年向けの鑑賞会を実施した。	年少者向けの作品上演に実績のあるNPO法人と共同し、質の高い上演作品を選定することができた。また、子どもたちが演劇鑑賞に興味を持つよう、開場前にワークショップを実施した。	999人	2019年7月13日～14日	青少年センター	—	重点施策2
県立歴史博物館における子どもたちを対象とした鑑賞事業の実施	特別展開連の子ども向け催し物や通年実施の子ども向け常設展ワークシートと1本の体験教室、近隣6館と共同企画した夏休みクイズラリーを実施した。	各催し物のチラシを作成し、近隣の学校等に配布したり、通常より早めの広報や募集開始を心掛けるなど、参加者増加につながるよう広報を工夫した。	特別展開連：885人 常設展開連、体験教室ワークシート：701人 体験教室：14人 夏休みクイズラリー：1,616人	夏休みクイズラリー2019年7月20日～8月30日他	県立歴史博物館	—	重点施策2
(再)歌舞伎鑑賞教室	県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を盛り上げるために、青少年・一般県民を対象に、歌舞伎を上演した。	実際に公演で使われる歌舞伎の小道具をホワイエで展示し、自由に体験できるコーナーを設けた。	1,533人	2019年7月26日～27日(4回)	青少年センター	アンケート結果は、4公演を通算して「大変良かった」「良かった」を合わせると96.6%にのぼった。	重点施策2
県立金沢文庫における子どもたちを対象とした鑑賞事業の実施	小学校高学年を対象に、称名寺と金沢文庫についての学習事業を実施した。	—	参加者数：10人	2019年8月3日	県立金沢文庫	—	重点施策2
県立近代美術館における子どもたちを対象とした鑑賞事業の実施	「柚木沙弥郎の『鳥獣戯画』」展に関わる子ども向けワークショップを実施した。また、県立こども医療センターでの造形ワークショップや、近隣の小中学校における出張授業も実施した。	参加者の年齢に応じ、ワークショップや授業の内容や教材を工夫した。	展覧会関連ワークショップ：1,217人 こども医療センターでのワークショップ：19人 出張授業：4校、601人	展覧会関連ワークショップ：2019年8月4日他 29回 こども医療センターでのワークショップ：2019年8月27日 出張授業：2019年5月28日他	展覧会関連ワークショップ：県立近代美術館葉山館 こども医療センターでのワークショップ：神奈川県立子ども医療センター 出張授業：逗子市立久木中学校等	—	重点施策2
(再)青少年ダンス鑑賞会	青少年の舞台芸術に対する理解を深め、教養の向上を通じて豊かな人間性を育むことを目的に、青少年向けの鑑賞会を実施した。	ソロでの映像を使った公演と6人でお芝居も取り入れたダンスの公演企画した。	247人	2019年8月8日	青少年センター	アンケートで講師の演技のレベルの高さに感嘆する声が多く、集計結果は、「とても良かった」「良かった」が92.7%であった。	重点施策2
(再)青少年対象演劇鑑賞会/おどる童話「AZUKI」	青少年に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供し、情操豊で健全な青少年の育成を図ることを目的に、演劇やダンスの鑑賞会を実施した。	青少年の共感を得やすい30代以下の若手演出家の作品や、青少年に特に人気の高いダンスの要素を取り入れた作品を取り上げた。	446人	2019年10月17日～20日(5回)	青少年センター	アンケート結果で「大変良かった」、「良かった」が合わせて100%であった。	重点施策2

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再) 青少年対象 演劇鑑賞会／ダ ンス体験！	青少年に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供し、情操豊で健全な青少年の育成を図ることを目的に、演劇やダンスの鑑賞会を実施した。	青少年の共感を得やすい30代以下の若手演出家の作品や、青少年に特に人気の高いダンスの要素を取り入れた作品を取り上げた。	176人	2020年1月11日～12日	青少年センター	アンケート結果で「大変良かった」、「良かった」が合わせて100%であった。	重点施策 2
(再) かながわ児童劇グループ交流会(かながわ人形劇フェスティバル)	地域で人形劇などの児童文化活動を行っているアマチュアグループに活動成果の発表と相互交流の場を提供するとともに、子どもたちに人形劇等の鑑賞の機会を提供した。	近年の出演者、観覧者の申込状況や出演者からの意見を踏まえ、事業の実施内容について検討した。	212人	2020年2月22日～23日	青少年センター スタジオHIKARI	—	重点施策 2
かなフィルランド～ミュージックプレイパーク&ファミリー縁日～	(公財) 神奈川フィルハーモニー管弦楽団によるコンサートや楽器体験、地元ボランティアによるパルーンアート、親子工作等のイベントを実施した。	ホールを入退場自由にする事で、気兼ねなく様々なイベントに参加し、音楽や芸術に親しんでもらうことができた。	900人	2019年8月12日	かながわアートホール	—	重点施策 2
神奈川フィル・ジュニアオーケストラ2019	小学4年生～高校3年生の子どもたちがアートホールに集い、神奈川フィル団員の指導を経て神奈川フィルと共演した。	受講生が楽器ごとに分かれて行うパート練習や弦楽器、管楽器それぞれの合奏練習を行った。	受講生：45人 ゲネプロ入場者：100人 修了公演入場者：208人	開講式：2019年11月10日 練習：2019年12月1日、15日、26日、27日、2020年1月4日 修了公演：2020年1月5日	かながわアートホール	—	重点施策 2
第55回神奈川県美術展中高生特別企画展	青少年の作品発表の機会の提供、創作活動の支援及び県美展の活性化を図るため、公募美術展を開催した。	前年度に大口の応募があった学校に個別に連絡し、広報活動を強化した。	応募点数：441点 応募人数：314名 入選者数：85人 入賞者数：18人	応募作品搬入：2019年7月6日～7日 展覧会：2019年8月25日～9月19日(うち2日休・開催24日間)	神奈川県民ホール ギャラリー	—	重点施策 2
(再) 青少年のための芝居塾	県内の地域・歴史等を取り入れた演劇・ミュージカルを創作し、公募した青少年により上演した。	数年おきに担当劇団を替えるなど、一般の青少年が参加しやすいように考慮している。	514人	2019年8月23日～28日	青少年センター スタジオ「HIKARI」	演劇経験のない子が参加したり、何年か連続して参加する塾生がいるなど、芝居塾に参加することの魅力が広がっている。	重点施策 2
(再) マグカル・パフォーミング・アーツ・アカデミー	マグカルの核となるような、専門的な舞台芸術人材を育成するため、実践的な歌・ダンス・演技のレッスンを行った。	常任の講師に加え、特別講師4名を迎えレッスンをを行った。	在籍者数：48人 鑑賞者数：1,095人	練習日：週2日 計87日(原則、火曜日と木曜日) 成果発表会：2019年4月7日(2公演) 本公演：2019年8月15日～18日(6公演)	青少年センター	—	重点施策 2
藤野芸術の家での文化芸術を体験する機会の提供	【体験事業】 多くの方が気軽に陶芸やガラス工芸などの芸術体験を親しむための常設事業、募集型の体験事業や季節限定体験事業を実施した。 【活動支援事業】 地域と連携して、絵画や写真等の展示・芸術活動発表の場を提供、また、地元講師を迎えた工芸講座を実施した。	【体験事業】 体験事業では、季節に合った期間限定メニューのほか、新たな体験メニューを実施するなど、何回でも楽しめる工夫を行った。 【活動支援事業】 活動支援事業では、工芸講座など宿泊とのセットプランを設けて、じっくり芸術活動に親しむことのできる環境を提供し、好評を得た。	【体験事業】 木工体験 9,725人 陶芸体験 4,974人 ガラス工芸等 12,068人 【活動支援事業】 絵画等展示 1,347人 万華鏡教室 34人 藤野村歌舞伎公演 314人 藤野席書き大会 41人	【体験事業】 通年 【活動支援事業】 絵画等展示：通年 万華鏡教室：2019年7月10日、11日ほか	藤野芸術の家	体験活動事業において、夏休みに自由研究に適した教室を実施した。 ・びわの葉染めのTシャツ作り ・手すき和紙のメッセージカード作り ・ガリレオ温度計作り	重点施策 2
(再) 相模人形芝居学校交流ワークショップ	高等学校等において、伝統芸能への関心を喚起し、団体の活動の紹介や上演等を行うワークショップを行った。	—	1,013人	2019年5月21日、10月1日、12月7日、2020年1月30日	①座間、南足柄、平塚、海老名の4会場	—	重点施策 2
(再) 日本舞踊に学ぶ'和'の作法	小・中学生を対象に、着物の着方の練習、日本舞踊等を体験するワークショップを行った。	参加料を無料にすることによって参加しやすくし、応募者数を増やす努力を行った。	85人	2019年7月26日～27日、8月3日～4日、8月10日～11日、8月13日～14日	横須賀、平塚、南足柄、横浜の4会場	アンケートの結果、97.5%の参加者が内容に「満足」と回答した。	重点施策 2

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再)かなぶん キッズクラブ (紙芝居、映画 会、絵本の読み 聞かせ等)	夏休みと春休みの子 どもの長期休み機関に合 わせて「かなぶんキッ ズクラブ」として紙芝 居、映画会、絵本の読 み聞かせなどを実施し た。	特に夏休み期間のイベ ントは、企画展のテー マに合わせた内容でも 開催した。	404人	紙芝居がはじまる よ！：2019年8月8日 子ども映画会：2019 年8月21日、8月22日 絵本であそぼ！： 2019年8月24日	神奈川近代文学館	県内で長い活動歴がある よこはま文庫の会、横浜 紙芝居普及会との連携を 深めることができた。	重点施策 2
(再)かながわこ ども民俗芸能 フェスティバル 〜れとろび〜と 2019〜	地域で継承されている 民俗芸能を県民に紹介 することで、伝統文化 への理解を深め、伝統 文化の継承、発展への 機運を醸成するととも に、後継者育成を支援 するためのイベントを 開催した。	県内で伝承されている 2種類の人形芝居の継 承活動に着目し、ホー ルでの公演機会を提供 することで、地域の伝 統芸能の継承に取り組 む子ども・青少年を支 援した。	396人	2019年11月 4 日	青少年センター	アンケート結果は、 97.9%の方から「大変良 かった」「良かった」と 回答があり、観覧者の高 い満足度に繋げることが できた。	重点施策 2
(6) 学校教育における文化芸術活動の充実							
(再)かなフィル ランド〜ミュー ジックプレイ パーク&ファミ リー縁日〜	(公財)神奈川フィル ハーモニー管弦楽団に よるコンサートや楽器 体験、地元ボランティア によるパルーンアー ト、親子工作等のイベ ントを実施した。	ホールを入退場自由 にすることで、気兼ね なく様々なイベントに 参加し、音楽や芸術に 親しんでもらうことが できた。	900人	2019年 8 月12日	かながわアートホー ル	—	重点施策 2
(再)神奈川フィル ・ジュニア オーケストラ 2019	小学4年生〜高校3年 生の子どもたちがアー トホールに集い、神奈 川フィルの楽団員の指 導を経て神奈川フィル と共演した。	受講生が楽器ごとに分 かれて行うパート練習 や弦楽器、管楽器それ ぞれの合奏練習を行っ た。	受講生：45人 ゲネプロ入場者： 100人 修了公演入場者： 208人	開講式：2019年11月 10日 練習：2019年12月 1 日、15日、26日、27 日、2020年 1 月 4 日 修了公演：2020年 1 月 5 日	かながわアートホー ル	—	重点施策 2
(再)相模人形芝 居学校交流ワー クショップ	高等学校等において、 伝統芸能への関心を喚 起し、団体の活動の紹 介や上演等を行うワー クショップを行った。	—	1,013人	2019年 5 月21日、10 月1日、12月7日、 2020年 1 月30日	①座間、南足柄、平 塚、海老名の4会場	—	重点施策 2
(再)日本舞踊に 学ぶ'和'の作 法	小・中学生を対象に、 着物の着方の練習、日 本舞踊等を体験する ワークショップを行っ た。	参加料を無料にするこ とによって参加しやす くし、応募者数を増や す努力を行った。	85人	2019年 7 月26日〜27 日、8 月 3 日〜4 日、8 月10日〜11 日、8 月13日〜14日	横須賀、平塚、南足 柄、横浜の4会場	アンケートの結果、 97.5%の参加 者が内容に「満足」と回 答した。	重点施策 2
(再)かながわこ ども民俗芸能 フェスティバル 〜れとろび〜と 2019〜	地域で継承されている 民俗芸能を県民に紹介 することで、伝統文化 への理解を深め、伝統 文化の継承、発展への 機運を醸成するととも に、後継者育成を支援 するためのイベントを 開催した。	県内で伝承されている 2種類の人形芝居の継 承活動に着目し、ホー ルでの公演機会を提供 することで、地域の伝 統芸能の継承に取り組 む子ども・青少年を支 援した。	396人	2019年11月 4 日	青少年センター	アンケート結果は、 97.9%の方から「大変良 かった」「良かった」と 回答があり、観覧者の高 い満足度に繋げることが できた。	重点施策 2
(再)かながわ民 俗芸能祭	県内各地で活動中の県 民俗芸能保存協会加盟 団体等が一堂に介し て、民俗伝統芸能を披 露した。	地域に暮らす人々によ り受け継がれてきた踊 りや芝居をまとめて鑑 賞できるよう、県内6 市町の伝統芸能を紹介 した。	376人	2019年12月 1 日	はまぎんホール ヴィアマーレ	—	重点施策 2
文化芸術による 子供育成総合事 業	子供たちに対し質の高 い文化芸術を鑑賞・体 験する機会を確保する とともに、ワーク ショップ等を実施する ことにより、子供たち の豊かな想像力やコ ミュニケーション能力 等を養い、文化芸術に 対する知識および教養 の向上を図った。	一方的に公演を行うだ けでなく、児童・生徒 と共演したり、実技指 導をするなど、児童・ 生徒が芸術体験でき るよう工夫している。	巡回公演事業：32校 実施 派遣事業：48校48件 実施 子供 夢・アート・ アカデミー：2校実 施	2019年 6 月〜12月	各学校の教室・体育 館など	—	重点施策 2
文化芸術による 子供育成総合事 業ーコミュニ ケーション能力 総合事業ー＜学 校申請方式＞	文化庁「文化芸術によ る子供育成総合事業ー コミュニケーション能 力総合事業ー＜学校申 請方式＞」による芸術 家と連携して授業を実 施した。	—	1 校 対象生徒42名 指導芸術家・補助者 6 名	2019年 9 月25日〜11 月27日 (全8回)	麻生総合高等学校	—	重点施策 2

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
中学校創作劇発表会	中学校を対象に、創作劇の発表会を実施した。	—	1,345人	2019年8月2日～3日	青少年センター	日程2日目に、朗読ボランティアによる被爆体験記朗読会を実施した。	重点施策2
(再)中・高等学校演劇講習会	中・高等学校の生徒と教員を対象に、演出、演技、舞台技術、照明、音響等に係る総合的な創造方法を学習する機会を提供した。	講師やプログラムの検討においては、中学生及び中高各専門部会のニーズや時代からの要請を踏まえ、見直しを行っている。	中学生及び教員1,254人 高校生及び教員629人	中学：2019年8月3日～4日 高校：2019年7月30日～31日	青少年センター	講習内容は「部活での活用ができる」など評価も高く、アンケートでも、「大変良かった」「良かった」が合わせて95%以上であるなど、高い満足度を得ている。	重点施策2
(再)青少年ダンス講習会	青少年、教員等を対象に、ダンス創作の基礎的理論や創作方法の習得を目的に講習会を実施した。	講師やプログラムの検討においては、ダンス専門部のニーズや時代からの要請を踏まえ、見直しを行っている。	478人	2019年8月7日～8日	青少年センター(紅葉坂ホール)	講習内容アンケートで、「大変良かった」「良かった」が平均で93.3%であり、高い満足度を得ている。	重点施策2
文化フェスタの開催	中学校、高等学校等における文化・芸術活動の活性化及び充実を図るため、県内の中学校、高等学校が発表、展示、実演を通じて相互交流を実施した。	—	高校 324人 中学 121人 合計 445人	2019年8月20日	青少年センター	—	
(再)学校演劇交流フェスティバル	学校演劇における創作のスキルアップを目的にした試演とワークショップを実施した。	演劇シーンの第一線で活躍する劇作家、演出家等を講師に活用した。	中学生、高校生、一般253人	2019年9月22日	青少年センター	アンケートによると、「とても良い」「良い」が90.3%と高く評価されている。	重点施策2
文化活動指導者研修講座の実施	文化部の部活動インストラクターを対象とした研修講座を実施した。	講座を受講し、1年以上の指導実績があり、校長が認めれば、部活動の校外の活動について単独引率を可能としている。	文化部部活動インストラクター11人	2019年9月28日	総合教育センター善行庁舎	—	
(再)青少年ダンス発表会	表現芸術の充実と向上を図ることを目的に創作舞踊発表会を実施した。	夏の講習会で受けた刺激を日頃の活動に活かした。	1,873人	2019年11月3日	青少年センター(紅葉坂ホール)	—	
全国高等学校日本大通りストリートダンスバトル	ストリートダンスを通じて、健全な青少年の育成を図り、「日本大通り」をストリートダンスの聖地として発信するために、第5回大会を実施した。	県外からの参加校を増やすべく、訪問によるプロモーションや通信手段を活用した広報を積極的に行った。	15,000人	2019年11月10日	県庁前日本大通り	—	
(再)演劇部実践指導塾「演劇部お助け講座」	中・高等学校の演劇部を対象に、演劇部の底上げを図るための実践的な講座を実施した。	中高演劇部のニーズや演劇界の情勢などを考慮し講師を選定した。	318人(中学校) 82人(高校)	2019年11月～2020年2月(8日間)	県内8会場??	—	
(再)演劇指導者のための実践的ワークショップ	中学校・高等学校の演劇部指導者、演劇部等の指導的立場にある生徒等を対象に、音響、照明、舞台のノウハウを学ぶための実践的なワークショップを実施した。	中・高とも発表会(県大会)の会場である紅葉坂ホールの機材、道具を実際に使用し、舞台、照明、音響の基礎的な部分から実践的な内容の講習を行った。	28人	2020年1月13日	青少年センター	アンケートでは、道具の使い方やホールの機器を使用できたことに評価があったほか、時間が足りないとの声もあった。	重点施策2
(再)小・中・高等学校演劇発表会	小・中・高等学校を対象に、演劇の発表会を実施した。	—	小学生1,000人 中学生1,586人 高校生1,541人	小学校：2020年2月15日 中学校：2019年12月7日～8日 高校：2019年11月16日～17日	青少年センター	—	
(再)青少年の舞台表現のためのスキルアップクラス	中高生向けの3つの先端的なワークショッププログラム(映像、舞台美術、ダンス振付)を実施し、青少年による演劇・ダンスの創造活動の発展向上に資する。	—	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	—	—	—	重点施策2

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
花育を目的とした「生け花」の講座	2019年度は10月15日から2月4日の期間にかけて13回開催し、生徒たちが「生け花」に触れる機会を提供した。	開催校で栽培している花材や季節ごとの花材を活用し、臨機応変に作品に利用した講座もあり、生徒の興味・関心が高まった。また、利用した花材の繁殖などを試みた。	250人	2019年10月～2020年2月 13回実施	相原高校、吉田島高校、中央農業高校、平塚農業高校、三浦初声高校	—	重点施策2
(再)青少年対象演劇鑑賞会／おどる童話「AZUKI」	青少年に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供し、情操豊で健全な青少年の育成を図ることを目的に、演劇やダンスの鑑賞会を実施した。	青少年の共感を得やすい30代以下の若手演出家の作品や、青少年に特に人気の高いダンスの要素を取り入れた作品を取り上げた。	446人	2019年10月17日～20日(5回)	青少年センター	アンケート結果で「大変良かった」、「良かった」が合わせて100%であった。	重点施策2
(再)青少年対象演劇鑑賞会／ダンス体鑑!	青少年に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供し、情操豊で健全な青少年の育成を図ることを目的に、演劇やダンスの鑑賞会を実施した。	青少年の共感を得やすい30代以下の若手演出家の作品や、青少年に特に人気の高いダンスの要素を取り入れた作品を取り上げた。	176人	2020年1月11日～12日	青少年センター	アンケート結果で「大変良かった」、「良かった」が合わせて100%であった。	重点施策2
横浜美術館「中高生プログラム2019」の周知	中学生、高校生が普段なかなか会うことのできないアーティストや専門家との出会いを通して、美術の魅力を体験することができる横浜美術館主催の長期のプログラムを高校生等に周知した。	—	参加者20人 (うち高校生7人)	2019年6月16日～11月24日 (全8回)	横浜美術館	—	重点施策2
(再)音楽堂ふれあいアウトリーチ	プロによる即興演奏の鑑賞会やワークショップを実施した。	各学校の状況に合わせて、学校側の希望を取り入れながらミニコンサートを開催した。	137人	2019年7月10日、9月25日	相模原養護学校橋本分教室、みどり養護学校	十分な時間をとって子ども達全員が自ら様々な楽器を触ってみる、演奏する機会も設けることができた。	重点施策2
(再)三ツ橋敬子の夏休みオーケストラ! みんなでピカピカ☆編	コンサートのほか、音楽体験企画を実施。その他、アウトリーチで中学校を訪問した。	種々のワークショップ等を通じて、様々な形で音楽に触れられるように工夫した。	1,700人 コンサート:789人 音楽体験企画:410人 アウトリーチ:501人	コンサート:2019年8月17日 音楽体験企画:2019年8月14日～17日 アウトリーチ:2019年5月28日	コンサート及び音楽体験企画:県立音楽堂 アウトリーチ:大磯町立大磯中学校	—	重点施策2
(再)音楽堂における芸術文化鑑賞普及事業	ワークショップ、アウトリーチなどを実施した。	—	計4,555人	通年 7事業4演目 5公演23企画45回	県立音楽堂ほか	子ども達が多様な音楽の鑑賞や、自ら様々な楽器を触り演奏する機会を設けることが出来た。	重点施策2
(7) 高齢者、障がい者等の文化芸術活動の充実							
神奈川県障害者社会参加推進センター事業(文化・芸術祭の開催)(県委託事業)	障がい当事者の文化的活動(絵画、工作、ダンス、合唱等)の発表を行う場を用意し、社会参加の推進を図った。	また、舞台発表と作品展示の会場を同じ部屋にすることでより多くの方に作品を見てもらえるよう工夫した。	209人	2019年12月14日～15日	厚木市保健福祉センター	—	重点施策2、4
ライトセンター普及啓発事業	神奈川県ライトセンターにおいて、視覚障害者同士の交歓活動となる文化クラブの場を提供した。	機関紙「ライトセンターだより」やホームページによる情報提供などで広く周知を行った。	213人	通年 月1回～月3回(クラブ活動により異なる)	神奈川県ライトセンター	啓発活動として、ライトセンターの施設公開や「ライトセンター音楽祭」、移動ライトセンターを実施した	重点施策2、4
(再)音楽堂ふれあいアウトリーチ	プロによる即興演奏の鑑賞会やワークショップを実施した。	各学校の状況に合わせて、学校側の希望を取り入れながらミニコンサートを開催した。	137人	2019年7月10日、9月25日	相模原養護学校橋本分教室、みどり養護学校	十分な時間をとって子ども達全員が自ら様々な楽器を触ってみる、演奏する機会も設けることができた。	重点施策2、4
託児サービス	KAAT 神奈川芸術劇場託児ルームを設置し、運用した。	乳幼児を育てる県民に対する、文化芸術の鑑賞機会の提供に寄与するため、主催公演において、託児ルームを設置した。	73人	KAAT主催公演 27回	KAAT神奈川芸術劇場	—	

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019（令和元）年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再) 共生共創事業	障がい者や高齢者等が出演する公演事業等を実施した。	障がい者や高齢者等が出演する公演事業のほか、シニア劇団の創設やシニアダンス企画の実施など、参加型事業も実施した。	6,947人	2019年5月～2020年3月	県民共済みらいホール ほか	公演回数 33回	重点施策 2、4
東京2020 NIPPON フェスティバル「ONE - Our New Episode - in KANAGAWA」	東京2020パラリンピック競技大会にあわせて開催される、東京2020NIPPONフェスティバルの文化プログラムの一つである「共生社会の実現に向けて」を開催した。	県所有の備品（チェンバレーション）を貸し、客席最前列の左右両端に3～5名ほどが入れる「車いす席」を配置した。	18,232人	2019年10月6日	日本大通り、神奈川県本庁舎（大会議場）	・義足ダンサーの大前光市氏によるダンスパフォーマンス ・パラスリートの鈴木朋樹選手（車いす陸上）によるパフォーマンスほか	重点施策 2、4
(再) 寄宿生活塾 はじめ塾×東京デスロック『Anti Human Education II ～TEENS Edit.～』	青少年を取り巻く不登校等の心の課題に対し舞台芸術の力が解決の糸口の1つとなる可能性を提示することを目的とした公演を実施した。	—	出演者19人 ※公演は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	成果発表会：2020年2月28日（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公演は中止とし、関係者向けに成果発表会を実施）	青少年センター スタジオHIKARI	一般財団法人地域創造が全国の自治体と公立文化施設向けに発行する月刊誌「地域創造レター」に先進事例として紹介された。	重点施策 2、4
(再) オープンシアター2019 東京バレエ団 はじめての『白鳥の湖』	子供向けバレエを上演した。	親子チケットや子ども料金の設定など、手ごろな価格で観覧しやすいように工夫した。	2,380人	2019年6月2日（2回）	県民ホール本館	バリアフリー推進の観点から、手話ワークショップや外国語対応案内係の配置などを行った。	重点施策 2、4

2 文化資源を活用した地域づくりの推進

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(1) 文化芸術に関する交流の推進							
県立金沢文庫における文化財の貸出、借入れ	県外の博物館等の展示に対して資料の貸出を行った。また、金沢文庫での特別展の実施にあたり、全国各地の博物館等、個人から資料の借入れを行った。	—	—	—	—	県外の博物館等の特別展への貸出：3点(茨城県立歴史館) 県外からの借入れ：205点(茨城県・常福寺、東京大学東洋文化研究所、広島県・浄土寺等)	
県立近代美術館における巡回展の実施	国内外の近現代美術の調査研究に基づく、巡回型の展覧会(関根正二展)を実施した。	—	入館者数：3,271人	2020年2月1日～3月3日	近代美術館(福島県、三重県も入れてください)	鎌倉別館で初の重要文化財の展示を行った。	
県立歴史博物館における収蔵資料の貸出	県外の博物館等の展覧会への収蔵資料の貸出を行った。	貸出先における展示環境等の把握に努め、より良い形で公開ができるよう貸出先と調整を行った。	—	—	—	貸出：71点(岩手県立博物館、群馬県立歴史博物館、広島県立美術館、福岡市博物館など14館の博物館・美術館)	
国民文化祭	国民文化祭の開催県である新潟県と連携し、参加団体へ国民文化祭の開催及び参加を周知した。	チラシやパンフレットの配架や県内市町村への周知を行い、参加者・来場者への広報に協力した。	日本舞踊の祭典：1団体・3人 オーケストラと合唱の祭典：2団体・2人 小倉百人一首競技かるた全国大会：1団体・8人 全日本健康マージャン交流大会：1団体・4人	2019年9月15日～11月30日	新潟県各地	—	
全国高等学校総合文化祭への参加	全国高等学校総合文化祭への生徒派遣を通して、相互交流・啓発、文化・芸術活動の一層の活性化を促進した。	—	全国高等学校総合文化祭・佐賀大会(参加生徒数：701名)	2019年7月27日～8月1日	開催県内各所	—	
県高等学校総合文化祭の開催	県高等学校総合文化祭において、高校生等の相互交流・啓発、文化・芸術活動の一層の活性化を促進した。	—	総合文化祭(開会式・専門部門26部門各会場、閉会式参加生徒数：延べ約19,100人)	2019年11月9日～2020年1月19日	県内各所	—	
(再)浮世絵カフェ	エンターテインメントレストランを開設し、「和」をテーマとしたデジタル映像の映写と浮世絵を活用したパフォーマンスを行うショーを開催した。	外国人を含めた観光客等の誘客のため、海外でも活躍するパフォーマンス集団白Aにより、プロジェクションマッピング、ダンス等が融合したノンバーバルパフォーマンスを実施した。	1,601人	2019年8月8日～2020年3月	英一番館(神奈川県民ホール内)	世界最大規模の旅行情報に関するウェブサイト「トリップアドバイザー」において、横浜市のナイトライブ部門で145軒中、口コミ1位を獲得した。	
(再)浮世絵アートウィーク2019	日本大通りにおいて日本伝統文化×デジタル技術を融合させたナイトアートイベントを実施した。	ラグビーワールドカップ2019 TM の準決勝及び決勝の日を含む期間に開催し、誘客に効果的であった。	13,221人	2019年10月26日～11月3日	日本大通り神奈川県庁前	浮世絵の中に入る体験のできる「北斎VR」が大変好評で、1,076人の方に体験していただくことができた。また全体の来場者のうち3割程度は外国人だった。	
(再)日本大通り流鏝馬騎射式	日本大通り県庁前において、首都圏公道初となる、流鏝馬騎射式を実施した。	ラグビーワールドカップ2019 TM の準決勝が横浜国際総合競技場でも開催される日程に合わせるにより、7つの国と地域から外交官等の来賓を招くことができた。	4,000人	2019年10月27日	日本大通り特設馬場	【来場した大使館等】モロッコ大使館、エクアドル大使館、台北駐日経済文化代表処横浜分處、オーストラリア大使館、ロシア大使館、フィリピン共和国大使館、トルコ大使館	
(再)ボローニャ歌劇場『セヴィリア』の理髪師	ボローニャ歌劇場から、スタッフとキャストを呼び、共催事業としてオペラを上演した。	2017～2018年度の舞台機構の改修の結果を生かした海外招聘が実現した。	1,236人	2019年6月22日	県民ホール本館	—	重点施策 3
(再)英国ロイヤル・バレエ団2019日本公演(ロイヤル・ガラ)	英国から、スタッフとキャストを呼び、共催事業としてガラ形式のバレエを上演した。	2017～2018年度の舞台機構の改修の結果を生かした海外招聘が実現した。	4,274人	2019年6月29日～30日	県民ホール本館	—	重点施策 3

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019（令和元）年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再)英国ロイヤル・オペラ2019 日本公演『オテロ』	英国から、スタッフとキャストを呼び、共催事業としてヴェルディの傑作オペラを上演した。	2017～2018年度の舞台機構の改修の結果を生かした海外招聘が実現した。	3,065人	2019年9月14日、16日	県民ホール本館	—	重点施策 3
(再)英国ロイヤル・オペラ2019 日本公演『ファウスト』	英国から、スタッフとキャストを呼び、共催事業としてグノーの傑作オペラを上演した。	2017～2018年度の舞台機構の改修の結果を生かした海外招聘が実現した。	1,984人	2019年9月22日	県民ホール本館	—	重点施策 3
(再)神奈川県民ホール・オペラシリーズ2019 グランドオペラ共同制作 オペラ『カルメン』	日本の4つの劇場が共同制作したオペラ『カルメン』を上演した。	2007年度から継続している国内公共劇場とのネットワークを生かし、共同制作先を選定した。	3,292人	2019年10月19日～20日	県民ホール本館	文化庁による共同制作補助金に採択され、約73,000千円の外部資金を得て実施した。	重点施策 3
(再)ポーランド国立ワルシャワ室内歌劇場 オペラ『フィガロの結婚』	ポーランドから、スタッフとキャストを呼び、共催事業としてオペラを上演した。	2017～2018年度の舞台機構の改修の結果を生かした海外招聘が実現した。	779人	2019年11月4日	県民ホール本館	—	重点施策 3
国際舞台芸術ミーティング in 横浜2020 (TPAM in YOKOHAMA2020)	舞台芸術に係るプロフェッショナルが国や地域を越えて集まり、公演・ワークショップ等のプログラムを通じて、情報交換・ネットワークの構築の場を提供した。	諸団体と緊密に連絡をとりあい、事業の意義が実現できるように、開催場所や資金の確保に尽力した。	2,584人	2020年2月8日～16日	KAAT他周辺施設	—	重点施策 3
共生共創事業	障がい者や高齢者等が出演する公演事業等を実施した。	障がい者や高齢者等が出演する公演事業のほか、シニア劇団の創設やシニアダンス企画の実施など、参加型事業も実施した。	6,947人	2019年5月～2020年3月	県民共済みらいホール ほか	公演回数 33回	重点施策 3
三県省道スポーツ交流事業	神奈川県、中国・遼寧省、韓国・京畿道の青少年によるスポーツの親善試合や交流事業を行った。	スポーツ親善試合だけではなく、県内の文化・観光施設の観覧や、県立高校の訪問を実施し、幅広い青少年交流を図った。	神奈川県選手団45名、遼寧省選手団10名	2019年8月19日～22日	桐蔭学園高等学校、座間総合高等学校等	—	重点施策 3
ベトナム文化等交流事業	ベトナム・神奈川の文化や食などをPRするプログラムを盛り込んだイベントを通して、両地域の相互理解を深め、幅広い分野での交流を更に推進するため、「ベトナムフェスタ in 神奈川2019」及び「KANAGAWA FESTIVAL in HANOI 2019」を実施した。	①「ベトナムフェスタ in 神奈川2019」 「見つけよう！新しいベトナム」をテーマに、まだ知られていないベトナムの魅力を発見できる場となるようコンテンツを実施。 ②「KANAGAWA FESTIVAL in HANOI 2019」 現地ベトナム人が直接日本や神奈川に触れてもらえるコンテンツを実施した。さらに、集客数向上につなげるため、SNS等を通じた情報発信に力を入れた。	①約280,000人 ②約75,000人	①2019年9月6日～8日 ②2019年11月16日～18日	①日本大通り、神奈川県庁本庁舎、Kosha33(神奈川県住宅供給公社)、象の鼻パーク ②リー・タイ・トー公園(ベトナム・ハノイ市内)	両イベントともに85%を超える高い満足度を得ている。	重点施策 3
世界文化交流プロジェクト	ラグビーワールドカップ2019 TM 及び東京2020大会の機会をとらえ、世界的に有名な演劇を上演した。	日本とフィンランドの外交関係樹立100周年を記念し、「VORTEX」を、ベトナムとの演劇による交流を促進することを目的に「ワーニャ伯父さん」を公演した。	1,329人	「VORTEX」(3公演)：2019年10月25日～27日 「ワーニャ伯父さん」(1公演)：2019年11月26日	「VORTEX」：KAAT神奈川芸術劇場 「ワーニャ伯父さん」：横浜市区民文化センターテアトルフォンテ	—	重点施策 3

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
かながわビエンナーレ国際児童画展	次代を担う子どもたちの夢と創造力を育み、絵画を通じてお互いの生活や文化を理解し、交流を深めるふれあいの場となることを目的として、1981年(昭和56年)から隔年で開催している(応募資格:満4歳以上15歳以下。テーマは自由。)	広く世界各地から作品を募集し、また受賞作品の地球市民かながわプラザでの展覧会や巡回展等を行った。	①第20回展表彰式 参加者276人 ②第20回展展覧会 参加者6,633人 ③特別展「プレイバック・ザ・カナガワビエンナーレ」 参加者834人 ④第20回展 県内巡回展(県内12か所) 来場者数10,437人	①2019年7月7日 ②2019年7月5日8月25日 ③2019年7月25日～8月3日 ④2019年9月3日～3月25日	地球市民かながわプラザ等	—	
アーティスト・イン・レジデンス推進事業	アートによる国際交流・地域間交流を目的に地域のアート団体と連携して「アーティスト・イン・レジデンス推進事業」を展開した。	2018年度募集では、スケジュール上、4月～5月までのイベントを採択することができなかったため、今年度は募集期間を前倒しした。	2,049人	2019年5月～10月3事業を実施	藤沢市(旧稲元屋、関次商店、旧石曽根商店、有田家、交流館他)、若葉町ウォーフ、高架下スタジオSite-A、ギャラリー		
(再)共生共創事業	障がい者や高齢者等が出演する公演事業等を実施した。	障がい者や高齢者等が出演する公演事業のほか、シニア劇団の創設やシニアダンス企画の実施など、参加型事業も実施した。	6,947人	2019年5月～2020年3月	県民共済みらいホール ほか	公演回数 33回	重点施策 3
あーすフェスタかながわ2019	多様な国籍文化や民族の違いを理解し、認め合うことのできる多文化共生社会の実現をめざし、「あーすフェスタかながわ2019」を実施した。	県内の民族団体、NPO、市民ボランティア等が企画段階から関わり、学び合いながらともに作り上げる過程を大切にしたい。	約20,000人	2019年5月18日～19日	地球市民かながわプラザ(あーすぶらざ)、横浜市栄区民文化センターリリス、国際言語文化アカデミア	アンケートの結果、81%の回答者から「たのしかった」との回答があった。	重点施策 3
地球市民かながわプラザ指定管理事業 (学習センター事業・相談センター事業・情報・相談センター事業・サポート・ネットワーク事業)	多文化共生の地域社会づくりに向け、多文化理解を推進するため、地球市民かながわプラザにおいて、展示学習などの学習センター事業、映像・図書資料の収集提供や外国籍県民相談等の情報・相談センター事業やNPO等活動支援などのサポート・ネットワーク事業等を実施した。	指定管理により、子どもから大人まで幅広い年齢層にプラザの理念や趣旨を魅力的に伝え、家族連れや友達同士で楽しく遊べるプログラムを実施する展示学習事業や大人も対象とした企画展及び関連イベントをバランスよく実施し、また校外学習の受入れ等を行った。	425,518人	2019年4月1日～3月31日	地球市民かながわプラザ	アンケートの結果、97.2%の人が「満足」「どちらかといえば満足」と回答している。	重点施策 3
高校生対象国際セミナー開催事業	①世界の現状や課題に対する理解を深め、豊かなコミュニケーション力等を育むためのセミナーを開催した。 ②日本と外国の異なる文化や多様な価値観を知るため、海外で活躍する方々と意見交換を実施した。	意見交換を行うにあたり、こういった手法がより発言しやすくなるか検討し実施している。	①70人 ②60人	①2020年1月26日 ②2019年6月1日、7月21日、12月15日、2020年2月15日	①JICA横浜 ②かながわ県民センター外3ヶ所	—	重点施策 3
高等学校への学習プログラム支援事業	高校生が地域と世界へ興味・関心を持つよう、県内高校に国際教育に係る講師を派遣して講演等を実施した。	講演だけではなく、ワークショップなど、より理解を深められる手法を検討し実施している。	14校(2,406名)	2019年5月～2020年3月	県内高校(14校)	—	重点施策 3
留学生・元留学生への社会参加促進事業	①県内外国留学生を対象に先輩留学生からメッセージを伝えるセミナーを開催した。 ②留学生の進学や就職に役立つWEBサイトや冊子の作成した。	セミナーを実施する際、母語だけではなくやさしい日本語も活用し、より丁寧な説明に努めている。また、留学生の支援に関わる関係機関との横のつながりを活用することで、より支援の幅を広くとるようにしている。	①190人 ②9名(WEB動画)	①2019年7月3日	①日石横浜ホール	—	重点施策 3

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
国連大学グロー バルセミナー開 催事業	国連大学と共催し、県内大学をはじめ、首都圏を中心とする大学と協力し、留学生を含む大学生を対象に国際課題をテーマとしたセミナーを開催した。	神奈川の各種取組を伝える「かながわセッション」にて、全体のテーマに即した内容にし、より伝わりやすくするため、セミナーまたはディスカッション形式で実施している。	91人	2019年8月26日～29日	湘南国際村センター	—	重点施策 3
(2) 創造的活動等の推進							
(再)「寄宿生活塾 はじめ塾×東京デスロック『Anti Human Education II ～TEENS Edit.～』」	青少年を取り巻く不登校等の心の課題に対し舞台芸術の力が解決の糸口の1つとなる可能性を提示することを目的とした公演を実施した。	—	出演者19人 ※公演は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	成果発表会：2020年2月28日(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公演は中止とし、関係者向けに成果発表会を実施)	青少年センター スタジオHIKARI	一般財団法人地域創造が全国の自治体と公立文化施設向けに発行する月刊誌「地域創造レター」に先進事例として紹介された。	
(再)かながわ短編演劇アワード2020	短編演劇及び短編戯曲の全国公募によるコンペティションを開催した。	短編戯曲において、作品テーマをSDGsとした。また、最終選考に残った戯曲をweb公開することで、より多くの方に作品に触れてもらう機会を設けた。	【応募数】 短編演劇：65団体 短編戯曲：59作品 【来場者数】 本戦：新型コロナウイルス感染症対策の為に無観客(ライブ配信)で開催 22席飛翔枠選抜大会(県内高校生枠選抜大会)：272人	本戦：2020年3月21日～22日 22席飛翔枠選抜大会(県内高校生枠選抜大会)：2020年1月12日	本戦：KAAT神奈川芸術劇場 22席飛翔枠選抜大会(県内高校生枠選抜大会)：県立神奈川総合高等学校	—	
(再)KAAT神奈川芸術劇場での公演事業の実施	「ドクター・ホフマンのサナトリウム～カプ力第4の長編～」など新たな舞台芸術作品の創造や新作公演を実施し、県外公演も行った。	国内外の優れた制作者との共同制作公演に積極的に取り組み、施設の特徴を生かした舞台芸術の創造・発信を行った。	58,276人	通年 7 演目122公演	KAAT神奈川芸術劇場 ホール又は大スタジオ、兵庫県立芸術文化センター、北九州芸術劇場ほか	—	
(再)神奈川伝統・映像アートウォーク	神奈川県庁本庁舎を丸ごと利用し、神奈川県にゆかりのある伝統芸能から、最先端のメディアアートなどの現代芸術まで様々な文化を一度に体験できる屋内イベントを実施した。	庁舎公開日及びラグビーワールドカップ2019 TM の準決勝日に実施したことで、誘客に効果的であった。	2,519人	2019年10月26日～27日	神奈川県庁本庁舎	【ワークショップ等の参加者数：計210人】 ・能楽ワークショップ：40人 ・日本舞踊ワークショップ：44人 ・生け花ワークショップ：23人 ・寄木細工のコースター製作などの体験ワークショップ：53人 ・相模人形芝居中座による人形ワークショップ：50人	
(再)浮世絵アートウィーク2019	日本大通りにおいて日本伝統文化×デジタル技術を融合させたナイトアートイベントを実施した。	ラグビーワールドカップ2019 TM (RWC)の準決勝及び決勝の日を含む期間に開催し、誘客に効果的であった。	13,221人	2019年10月26日～11月3日	日本大通り神奈川県庁前	浮世絵の中に入る体験のできる「北斎VR」が大変好評で、1,076人の方に体験していただくことができた。また全体の来場者のうち3割程度は外国人だった。	
(再)浮世絵カフェ	エンターテインメントレストランを開設し、「和」をテーマとしたデジタル映像の映写と浮世絵を活用したパフォーマンスを行うショーを開催した。	外国人を含めた観光客等の誘客のため、海外でも活躍するパフォーマンス集団白Aにより、プロジェクションマッピング、ダンス等が融合したノンバーバルパフォーマンスを実施した。	1,601人	2019年8月8日～2020年3月	英一番館(神奈川県民ホール内)	世界最大規模の旅行情報に関するウェブサイト「トリップアドバイザー」において、横浜市のナイトライブ部門で145軒中、口コミ1位を獲得した。	
(再)第35回かながわ音楽コンクール	神奈川県ゆかりの才能ある若手演奏者を紹介し、育成を図る目的でコンクールを実施した。	入賞者を対象としたクリスタルコンサート、上位入賞者によるトップコンサートを実施し、上位入賞者はオーケストラと共演した。	参加者数：937人 鑑賞者数：延べ2,800人 (クリスタルコンサート及びトップコンサートの鑑賞者数：1,040人)	クリスタルコンサート：2019年8月23日 トップコンサート：2020年10月13日	クリスタルコンサート：横浜みなとみらいホール 小ホール トップコンサート：神奈川県立音楽堂	—	
(3) 文化資源の活用							
(再)浮世絵カフェ	エンターテインメントレストランを開設し、「和」をテーマとしたデジタル映像の映写と浮世絵を活用したパフォーマンスを行うショーを開催した。	外国人を含めた観光客等の誘客のため、海外でも活躍するパフォーマンス集団白Aにより、プロジェクションマッピング、ダンス等が融合したノンバーバルパフォーマンスを実施した。	1,601人	2019年8月8日～2020年3月	英一番館(神奈川県民ホール内)	世界最大規模の旅行情報に関するウェブサイト「トリップアドバイザー」において、横浜市のナイトライブ部門で145軒中、口コミ1位を獲得した。	重点施策 4

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019（令和元）年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再) 共生共創事業	障がい者や高齢者等が出演する公演事業等を実施した。	障がい者や高齢者等が出演する公演事業のほか、シニア劇団の創設やシニアダンス企画の実施など、参加型事業も実施した。	6,947人	2019年5月～2020年3月	県民共済みらいホール ほか	公演回数 33回	重点施策 4
(再) マグカル開放区	歩行者天国となった県庁前の日本大通りを活用し、音楽、ダンス等のジャンルを問わず自由に発表できる場を提供することにより、日本大通りの活性化を図るとともに、県民の文化芸術活動を後押しした。	他市の公道で実施する出張開放区や企画開放区の実施など随時工夫を凝らした展開を行った。	約5,000人/1日	近隣にてイベントが開催されない日曜日	県庁前日本大通りほか	—	
(再) マグカル推進事業補助金	神奈川文化プログラムの核となる事業を実施する団体から企画案を公募し、補助金を交付した。	創設2年目に当たり、より丁寧な広報を行った。	要望団体数：30件 助成団体数：9件 助成金交付額：17,604千円	—	—	—	
(再) 青少年ダンス講習会	青少年、教員等を対象に、ダンス創作の基礎的理論や創作方法の習得を目的に講習会を実施した。	講師やプログラムの検討においては、ダンス専門部のニーズや時代からの要請を踏まえ、見直しを行っている。	478人	2019年8月7日～8日	青少年センター(紅葉坂ホール)	講習内容アンケートで、「大変良かった」「良かった」が平均で93.3%であり、高い満足度を得ている。	重点施策 5
(再) 演劇指導者のための実践的ワークショップ	中学校・高等学校の演劇部指導者、演劇部等の指導的立場にある生徒等を対象に、音響、照明、舞台のノウハウを学ぶための実践的なワークショップを実施した。	中・高とも発表会（県大会）の会場である紅葉坂ホールの機材、道具を実際に使用し、舞台、照明、音響の基礎的な部分から実践的な内容の講習を行った。	28人	2020年1月13日	青少年センター	アンケートでは、道具の使い方やホールの機器を使用できたことに評価があったほか、時間が足りないとの声もあった。	重点施策 5
(再) 青少年のための芝居塾	県内の地域・歴史等を取り入れた演劇・ミュージカルを創作し、公募した青少年により上演した。	数年おきに担当劇団を替えるなど、一般の青少年が参加しやすいように考慮している。	514人	2019年8月23日～28日	青少年センター スタジオ「HIKARI」	演劇経験のない子が参加したり、何年か連続して参加する塾生がいるなど、芝居塾に参加することの魅力が広がっている。	重点施策 5
(再) 学校演劇交流フェスティバル	学校演劇における創作のスキルアップを目的にした試演とワークショップを実施した。	演劇シーンの第一線で活躍する劇作家、演出家等を講師に活用した。	中学生、高校生、一般253人	2019年9月22日	青少年センター	アンケートによると、「とても良い」「良い」が90.3%と高く評価されている。	重点施策 5
(再) 全国高等学校日本大通りストリートダンスバトル	ストリートダンスを通じて、健全な青少年の育成を図り、「日本大通り」をストリートダンスの聖地として発信するために、第5回大会を実施した。	県外からの参加校を増やすべく、訪問によるプロモーションや通信手段を活用した広報を積極的に行った。	15,000人	2019年11月10日	県庁前日本大通り	—	
(再) 演劇部実践指導塾「演劇部お助け講座」	中・高等学校の演劇部を対象に、演劇部の底上げを図るための実践的な講座を実施した。	中高演劇部のニーズや演劇界の情勢などを考慮し講師を選定した。	318人(中学校) 82人(高校)	2019年11月～2020年2月（8日間）	県内8会場	—	重点施策 5
(再) マグカル・ハイスクール・演劇フェスタ	県高校演劇発表会にて最優秀賞等高い評価を得た作品を上演した。	関東大会出場に向けて、県大会からの舞台装置の変更・見直しなど、作品のブラッシュアップに向けた相談に乗った。	316人	2019年12月13日～15日	青少年センター スタジオ「HIKARI」	前年度の全国大会で初めて最優秀賞を受賞するなど、着実に実績が上がっている。	
(再) 演劇指導者のための実践的ワークショップ	中学校・高等学校の演劇部指導者、演劇部等の指導的立場にある生徒等を対象に、音響、照明、舞台のノウハウを学ぶための実践的なワークショップを実施した。	中・高とも発表会（県大会）の会場である紅葉坂ホールの機材、道具を実際に使用し、舞台、照明、音響の基礎的な部分から実践的な内容の講習を行った。	28人	2020年1月13日	青少年センター	アンケートでは、道具の使い方やホールの機器を使用できたことに評価があったほか、時間が足りないとの声もあった。	重点施策 5
(再) かながわミュージカルアワード2020	神奈川の地域色豊かなミュージカルの表彰・公演事業を実施し、県内のミュージカル人材の育成及びレベルアップを図る。	神奈川県にゆかりのある題材のミュージカルを公募し、地域色を出した。	新型コロナウイルスの感染拡大により、公演中止。	アワード公演：2020年3月15日	青少年センター 紅葉坂ホール	—	

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再)かながわ短編演劇アワード2020	短編演劇及び短編戯曲の全国公募によるコンペティションを開催した。	短編戯曲において、作品テーマをSDGsとした。また、最終選考に残った戯曲をweb公開することで、より多くの方に作品に触れてもらう機会を設けた。	【応募数】 短編演劇：65団体 短編戯曲：59作品 【来場者数】 本戦：新型コロナウイルス感染症対策の無観客(ライブ配信)で開催 22席飛翔杯選抜大会(県内高校生枠選抜大会)：272人	本戦：2020年3月21日～22日 22席飛翔杯選抜大会(県内高校生枠選抜大会)：2020年1月12日	本戦：KAAT神奈川芸術劇場 22席飛翔杯選抜大会(県内高校生枠選抜大会)：県立神奈川総合高等学校	—	
(再)KAAT神奈川芸術劇場における人材育成事業	舞台技術専門スタッフを対象にした実践的な講座を行うとともに、劇場運営や舞台技術に関心のある学生等をインターンとして受け入れ、業務体験等を実施した。	「人をつくる」創造型劇場として、若手演出家、舞台技術専門スタッフ、大学生など、劇場での舞台芸術に関わる多様なジャンルの人材を育成に寄与した。	34人	2019年7月～2020年3月	KAAT神奈川芸術劇場	—	重点施策5
(再)県民ホール本館における人材育成事業	劇場運営のマネジメントや公演制作に関する講座や現場実習を開催した。	講座では、公共文化施設において障がいを持つ方への的確な対応方法について講義を行い、好評を得た。	32人	2019年9月～2020年2月	県民ホール本館	—	重点施策5
(再)マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー	マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミーの核となるような、専門的な舞台芸術人材を育成するため、実践的な歌・ダンス・演技のレッスンを行った。	常任の講師に加え、特別講師4名を迎えレッスンをを行った。	在籍者数：48人 鑑賞者数：1,095人	練習日：週2日 計87日(原則、火曜日と木曜日) 成果発表会：2019年4月7日(2公演) 本公演：2019年8月15日～18日(6公演)	青少年センター	—	重点施策5
(再)マグカルシアター等	主に若手の舞台芸術団体や個人に青少年センター スタジオ「HIKARI」を公演場所として会場・設備・備品を無料で提供した。	多くの文化芸術団体等の公演の場を広げるため、公演枠数を20枠から36枠に増加した。	6,509人	2019年4月18日～2020年3月15日	青少年センター スタジオ「HIKARI」	スタジオを小劇場仕様としたことから、出演団体の種別や東京所在の団体が増えるなど、すそ野が広がっている。	重点施策5
(再)青少年の舞台表現のためのスキルアップクラス	中高生向けの3つの先端的なワークショッププログラム(映像、舞台美術、ダンス振付)を実施し、青少年による演劇・ダンスの創造活動の発展向上に資する。		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	—	—	—	重点施策5
県立高校における舞台芸術に関する学科の新設に向けた準備	県立高校改革実施計画(Ⅱ期)に基づき、令和3年度から県立神奈川総合高校に舞台芸術科を設置するため、必要な施設・設備を整備する工事を実施するための実施設計や、教育内容等を示した設置計画を作成するなど準備を進めた。	設置計画の作成に当たっては、科目の選択パターンを進路別に示すなど、中学生・保護者にわかりやすいものとなるよう工夫した。				2020年1月 校舎改修工事実施設計完了 2020年3月 設置計画策定	
(再)東京2020NIPPONフェスティバル「ONE - Our New Episode - in KANAGAWA」	東京2020パラリンピック競技大会にあわせて開催される、東京2020NIPPONフェスティバルの文化プログラムの一つである「共生社会の実現に向けて」を開催した。	県所有の備品(チェーンパテーション)を貸し、客席最前列の左右両端に3～5名ほどが入れる「車いす席」を配置した。	18,232人	2019年10月6日	日本大通り、神奈川県本庁舎(大会議場)	・義足ダンサーの大前光氏によるダンスパフォーマンス ・パラアスリートの鈴木朋樹選手(車いす陸上)によるパフォーマンスほか	重点施策4
(再)世界文化交流プロジェクト	ラグビーワールドカップ2019™及び東京2020大会の機会をとらえ、世界的に有名な演劇を上演した。	日本とフィンランドの外交関係樹立100周年を記念し、「VORTEX」を、ベトナムとの演劇による交流を促進することを目的に「ワーニャ伯父さん」を公演した。	1,329人	「VORTEX」(3公演)：2019年10月25日～27日 「ワーニャ伯父さん」(1公演)：2019年11月26日	「VORTEX」：KAAT神奈川芸術劇場 「ワーニャ伯父さん」：横浜市泉区民文化センターテアトルフォンテ	—	重点施策4

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019（令和元）年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再)神奈川伝統・映像アートウォーク	神奈川県庁本庁舎を丸ごと利用し、神奈川県にゆかりのある伝統芸能から、最先端のメディアアートなどの現代芸術まで様々な文化を一度に体験できる屋内イベントを実施した。	庁舎公開日及びラグビーワールドカップ2019 TM の準決勝日に実施したことで、誘客に効果的であった。	2,519人	2019年10月26日、27日	神奈川県庁本庁舎	【ワークショップ等の参加者数：計210人】 ・能楽ワークショップ：40人 ・日本舞踊ワークショップ：44人 ・生け花ワークショップ：23人 ・寄木細工のコースター製作などの体験ワークショップ：53人 ・相模人形芝居下中座による人形ワークショップ：50人	重点施策4
(再)日本大通り流鏝馬騎射式	日本大通り県庁前において、首都圏公道初となる、流鏝馬騎射式を実施した。	ラグビーワールドカップ2019 TM の準決勝が横浜国際総合競技場でも開催される日程に合わせることで、7つの国と地域から外交官等の来賓を招くことができた。	4,000人	2019年10月27日	日本大通り特設馬場	【来場した大使館等】モロッコ大使館、エクアドル大使館、台北駐日経済文化代表處横浜分處、オーストラリア大使館、ロシア大使館、フィリピン共和国大使館、トルコ大使館	重点施策4
(再)浮世絵アートウィーク2019	日本大通りにおいて日本伝統文化×デジタル技術を融合させたナイトアートイベントを実施した。	ラグビーワールドカップ2019 TM の準決勝及び決勝の日を含む期間に開催し、誘客に効果的であった。	13,221人	2019年10月26日～11月3日	日本大通り神奈川県庁前	浮世絵の中に入る体験のできる「北斎VR」が大変好評で、1,076人の方に体験していただくことができた。また全体の来場者のうち3割程度は外国人だった。	重点施策4
マグカルナイト運営業務	地域の賑わいを創り出すため、誰もが気軽に立ち寄ることが可能な、地域に密着した飲食店等を活用し、様々なエンターテインメントを毎週水曜日に週替わりで提供した。	ラグビーワールドカップ2019 TM の開催期間中に、「マグカルナイト Special WEEK!!」として、5日間連続で開催した。	977人	2019年4月1日～2020年3月31日	ヨコハマスリーエス	公演回数 42回	重点施策4
(再)神奈川文化プログラム認証制度	県内で実施する事業・活動について、一定の要件を満たすものを神奈川県文化プログラムとして認証した。	県内市町村や文化芸術活動団体、文化施設等に積極的に周知を行い、より多くの事業を認証することができた。	神奈川文化プログラム認証制度：認証件数969件	—	県内全域	—	重点施策4
湘南邸園文化祭2019	9月～12月にかけて相模湾沿岸の14市町の邸園等において、31の市民団体等により61のイベントを実施した。	—	延べ約9,700人	9月13日～12月15日	相模湾沿岸地域一帯の邸宅・邸園等	—	
箱根ジオパーク推進協議会事業	・シンポジウムの開催 ・PRイベントの実施 ・ガイド養成講座の開催 ・サポーター講座の開催 ・ジオツアーの実施 ・小中学校等での教育活動 ・ジオパーク特産品の開発 ・サインの整備 ・ジオサイト保全活動 ・パンフレット等作成	サイン整備事業において、外国語版ページ作成と板面QRコード添付	・シンポジウム（講演65人、ワークショップ35人） ・ガイド養成講座（219人） ・サポーター講座（90人） ・ジオツアー（68人） ・小中学校での教育活動（1,247人）	（シンポジウム）2019年9月15日	（シンポジウム）生命の星・地球博物館	—	
「鎌倉」の世界文化遺産登録の推進	世界遺産登録を目指す「鎌倉」の構成資産について、適切な保存管理と積極的な公開活用を図るため、県費補助金による助成を行った。また、「鎌倉」世界遺産に係る文化財保護ポスター事業を行った。そのほか、海外の類似資産との比較研究の成果をまとめた連続講座の結果や国際共同研究の記録に係る冊子を作成した。	世界文化遺産登録の推進に係る普及啓発を図るため、文化財保護ポスターの募集や巡回展示、研究成果に係る冊子の配布を実施した。	—	—	—	文化財保護ポスター事業の実施、冊子の配布を通じて、世界文化遺産登録の推進に係る普及啓発を図ることができた。	

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
「日本遺産」に関する情報提供及び支援	「日本遺産」の新規認定申請について、県内市町村等に周知を行った。また、既認定の「日本遺産」について、文化庁補助金の周知や助言を通じ、市町村や地元協議会による地域活性化の取組を支援した。	—	—	—	—	伊勢原市等で文化庁補助金を受けながら、観光客等受入環境整備等が実施された。	
(再)相模人形芝居学校交流ワークショップ	高等学校等において、伝統芸能への関心を喚起し、団体の活動の紹介や上演等を行うワークショップを行った。	—	1,013人	2019年5月21日、10月1日、12月7日、2020年1月30日	①座間、南足柄、平塚、海老名の4会場	—	重点施策 4
(再)日本舞踊に学ぶ'和'の作法	小・中学生を対象に、着物の着方の練習、日本舞踊等を体験するワークショップを行った。	参加料を無料にすることによって参加しやすくなり、応募者数を増やす努力を行った。	85人	2019年7月26日～27日、8月3日～4日、8月10日～11日、8月13日～14日	横須賀、平塚、南足柄、横浜の4会場	アンケートの結果、97.5%の参加者が内容に「満足」と回答した。	重点施策 4
(再)カナガワリ・古典in秦野	秦野市を舞台に、県内の古典や各地の貴重な伝統文化の魅力・価値を再発見し、継承への機運醸成を目指す、民俗芸能フェスティバル事業を開催した。	県にゆかりのある伝統芸能をデジタル映像と組み合わせることで、今まで馴染みのなかった方にも、現代を生きた文化芸術として「再(Re)リ」発信することができた。	1,318人	2019年10月20日	クアーズテック秦野カルチャーホール(秦野市文化会館)	当該事業、周辺イベント、ともに地域と連携して実施したことで、地域のにぎわい創出に寄与した。	重点施策 4
(再)かながわこども民俗芸能フェスティバル〜れとろびーと2019〜	地域で継承されている民俗芸能を県民に紹介することで、伝統文化への理解を深め、伝統文化の継承、発展への機運を醸成するとともに、後継者育成を支援するためのイベントを開催した。	県内で伝承されている2種類の人形芝居の継承活動に着目し、ホールでの公演機会を提供することで、地域の伝統芸能の継承に取り組む子ども・青少年を支援した。	396人	2019年11月4日	青少年センター	アンケート結果は、97.9%の方から「大変良かった」「良かった」と回答があり、観覧者の高い満足度に繋げることができた。	重点施策 4
(再)かながわの太鼓	神奈川県太鼓連合加盟団体が一堂に会し、県外の団体も参加して創作太鼓演奏を披露した。	ジュニアコンクール神奈川県優勝1団体等若い世代も参加した。	620人	2019年11月10日	青少年センター紅葉坂ホール	—	重点施策 4
(再)かながわ民族芸能祭	県内各地で活動中の県民俗芸能保存協会加盟団体等が一堂に介して、民俗伝統芸能を披露した。	地域に暮らす人々により受け継がれてきた踊りや芝居をまとめて鑑賞できるよう、県内6市町の伝統芸能を紹介した。	376人	2019年12月1日	はまぎんホールヴィアマーレ	—	重点施策 4
(再)県立歴史博物館における特別展の実施	「横浜開港160年 横浜浮世絵」展などの特別展を実施した。	「ポケット学芸員」を活用した音声・文字による展示ガイドを行った。また、関連事業として講演会や展示解説を積極的に行った。	35,151人	通年 4回開催	県立歴史博物館	—	
(再)民俗芸能調査事業	「吉浜の鹿島踊」を初め、県内に所在する「鹿島踊」について記録保存を行うことにより、県内の民俗芸能の保存・継承の基礎資料とし、調査において当該芸能の特色を明らかにする。	調査員による現地調査及び関連文献の調査	調査員13人ほか	現地調査2019年4月23日ほか57回	湯河原町吉浜、湯河原町鍛冶屋、小田原市米神、小田原市根府川、真鶴町真鶴ほか	保存会代表者が参加した中間報告会を実施した。	
(再)地芝居2020	青少年・一般県民を対象に、県内で地芝居と伝統芸能を継承する団体の活動成果を披露した。	—	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	—	青少年センター	—	重点施策 4
紅葉ヶ丘地域活性化事業	紅葉ヶ丘エリアへの来場者や周辺住民が、新しい紅葉ヶ丘に親しむ契機となるよう整備した広場にイルミネーションを施工した。	場所柄、音出し等ができない中、光のみを活用したコンテンツを実施することにより、活性化に寄与した。	未集計(施設来場者や周辺住民)	2019年12月～2020年3月	紅葉ヶ丘地域	—	

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019（令和元）年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
観光かながわNOW情報発信事業	ホームページ等により、県内の伝統的な行事や祭りの開催など文化資源に関する地域情報を発信した。	美術館等の位置を分かりやすく示した観光マップ（クリックابل）を掲載する。トップページにて、イベント情報を発信する他、文化芸術イベントの公演情報等の詳細を発信する「マグカル・ドット・ネット」と「観光かながわNOW」をリンクさせる。	「観光かながわNOW」令和元年度ページビュー8,736,681PV	通年	観光かながわNOW	—	
無形民俗文化財及び民俗行事等の情報提供	神奈川県無形民俗文化財及び民俗行事等の催行日時の掲載を行った。	—	—	—	—	昨年度に引き続き、神奈川県の無形民俗文化財及び民俗行事等の催行日時の掲載を行った結果、ページビュー数は661件であった。	
伝統的工芸品展WAZA2020	大消費地での全国伝統的工芸品展に伝統的工芸品産業（産地）従事者が出展するための支援を行った。	県のより多くの伝統的工芸品（箱根寄木細工、小田原漆器、鎌倉彫 計3品）を周知するため、産地組合を通じ、各産地すべてに参加を促した。	来場者数：121,215人	2020年2月20日～25日	東武百貨店池袋店	—	
関東ブロック伝統的工芸品展2020	関東甲信越静地区の伝統的工芸品展に伝統的工芸品産業（産地）従事者が出展するための支援を行った。	県のより多くの伝統的工芸品（箱根寄木細工、小田原漆器、鎌倉彫 計3品）を周知するため、産地組合を通じ、各産地すべてに参加を促した。	来場者数：約12,600人	2020年1月24日～26日	羽田空港国際線旅客ターミナルビル	—	
フィルムコミッション活動支援事業	神奈川ロケーションサポートデスクの設置（制作会社からの問合せに対して、お薦めロケ地のPRや、フィルムコミッションの紹介、市町村との調整などの機能を担う。）	公益社団法人神奈川県観光協会の実施する各種観光プロモーション事業と効果的かつ一体的に実施するため、平成30年4月から同協会に神奈川ロケーションサポートデスク事業を移管。	神奈川ロケーションサポートデスクへの問い合わせ件数…245件	—	（公社）神奈川県観光協会	—	
神奈川県オリパラ文化プログラム推進協議会	文化芸術を求めて人々が集う神奈川を目指し、神奈川の文化プログラムを推進するため、県内市町村と連携しながら取り組むことを目的とする。	県からの一方的な発信にならないよう、参加した全市町村からそれぞれの文化政策について発言をしていただき、情報共有を行っている。	90人	2019年5月20日、8月22日、2020年1月17日	湘南地域県政総合センター、藤沢合同庁舎	—	重点施策5
(4) 景観の形成							
景観計画策定等に係る意見交換会	神奈川景観づくり基本方針では、景観づくりを推進する上で市町村の役割の重要性から「全ての市町村が景観行政団体となるよう支援する」旨を定めており、未移行団体の町村と意見交換を実施した。	—	—	意見交換日を記載ください。	実施会場の記載が可能であればご記入ください。	未移行団体の町村と意見交換を実施した結果、県と町村との共通認識を確保することができた。	
文化財保護法に基づく重要文化的景観の選定に係る検討	文化庁や全国文化的景観地区連絡協議会による研修や普及啓発について県の関係部局及び県内市町村に周知した。	—	—	—	—	重要文化的景観の制度等の周知を通じ、選定に向けた機運の醸成を図った。	

3 文化芸術の振興を図るための環境整備

2019(令和元)年度実績							重点施策の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(1) 学校施設、公共施設の活用等							
県立学校施設開放事業	県立学校の図書室・音楽室などの学習施設や、グラウンド・体育館などの体育施設を県民の学習・文化活動やスポーツ活動の場として提供した。	地域住民が利用しやすいよう、土曜日又は日曜日のいずれか半日以上を原則開放日として設定している。	学習施設：開放校数24校、利用人数8,298人 体育施設：開放校数162校、利用人数235,328人	通年	各県立学校	—	
(再)神奈川伝統・映像アートウォーク	神奈川県庁本庁舎を丸ごと利用し、神奈川県にゆかりのある伝統芸能から、最先端のメディアアートなどの現代芸術まで様々な文化を一度に体験できる屋内イベントを実施した。	庁舎公開日及びラグビーワールドカップ2019 [™] (RWC)の準決勝日に実施したことで、観客に効果的であった。	2,519人	2019年10月26日～27日	神奈川県庁本庁舎	【ワークショップ等の参加者数：計210人】 ・能楽ワークショップ：40人 ・日本舞踊ワークショップ：44人 ・生け花ワークショップ：23人 ・寄木細工のコースター製作などの体験ワークショップ：53人 ・相模人形芝居下中座による人形ワークショップ：50人	
(再)日本大通り流鏝馬騎射式	日本大通り県庁前において、首都圏公道初となる、流鏝馬騎射式を実施した。	ラグビーワールドカップ2019 [™] (RWC)の準決勝が横浜国際総合競技場でも開催される日程に合わせることで、7つの国と地域から外交官等の来賓を招くことができた。	4,000人	2019年10月27日	日本大通り特設馬場	【来場した大使館等】モロッコ大使館、エクアドル大使館、台北駐日経済文化代表處横浜分處、オーストラリア大使館、ロシア大使館、フィリピン共和国大使館、トルコ大使館	
(2) 県立文化施設の充実							
県民ホール本館の整備・修繕	施設の円滑な運営及び利用者の利便に供するための修繕・工事等を実施した。	施設の利用に支障を来すことなく、適切な時期に工事を実施することができた。	—	通年	県民ホール本館	楽屋入口空調設備工事など、31件の修繕・工事を実施した。	重点施策5
KAAT神奈川芸術劇場の整備・修繕	施設の円滑な運営及び利用者の利便に供するための修繕・工事等を実施した。	施設の利用に支障を来すことなく、適切な時期に工事を実施することができた。	—	通年	KAAT神奈川芸術劇場	調光装置部品交換工事など、66件の修繕・工事を実施した。	重点施策5
県立音楽堂の整備・修繕	施設の円滑な運営及び利用者の利便に供するための修繕・工事等を実施した。	施設の利用に支障を来すことなく、適切な時期に工事を実施することができた。	—	通年	県立音楽堂	無線LANアクセスポイント設置工事など、9件の工事や修理・補修を実施した。	重点施策5
県立かながわアートホールの整備・修繕	施設の円滑な運営及び利用者の利便に供するための修繕・工事等を実施した。	施設の利用に支障を来すことなく、適切な時期に工事を実施することができた。	—	通年	県立かながわアートホール	舞台隙間調整・桁取替工事など、17件の修繕・工事を実施した。	重点施策5
青少年センターホール天井改修工事設計調査	青少年センターホールの天井の改修工事のため必要な調査設計を行った。	—	—	2018年11月6日～2019年11月29日	青少年センター	—	重点施策5
神奈川近代文学館の整備・修繕	施設の円滑な運営及び利用者の利便に供するための修繕・工事等	施設の利用に支障を来すことなく、適切な時期に工事を実施することができた。	—	通年	神奈川近代文学館	受変電設備、ウォールケース昇降駆動装置など、約36件の修繕・工事を実施した。	重点5
(再)マグカル・パフォーマンス・アカデミー	マグカル・パフォーマンスの核となるような、専門的な舞台芸術人材を育成するため、実践的な歌・ダンス・演技のレッスンを行う。	常任の講師に加え、特別講師4名を迎えレッスンをを行った。	在籍者数：48人 鑑賞者数：1,095人	練習日：週2日 計87日(原則、火曜日と木曜日) 成果発表会：2019年4月7日(2公演) 本公演：2019年8月15日～18日(6公演)	青少年センター	—	重点施策5

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再)中・高等学校 演劇講習会	中・高等学校の生徒と 教員を対象に、演出、 演技、舞台技術、照 明、音響等に係る総合 的な創造方法を学習す る機会を提供した。	講師やプログラムの検 討においては、中高生 及び中高各専門部会 のニーズや時代からの 要請を踏まえ、見直し を行っている。	中学生及び教員 1,254人 高校生及び教員629 人	中学：2019年8月3 日～4日 高校：2019年7月30 日～31日	青少年センター	講習内容は「部活での活 用ができる」など評価も 高く、アンケートでも、 「大変良かった」「良 かった」が合わせて95% 以上であるなど、高い満 足度を得ている。	重点施策 5
(再)青少年ダン ス講習会	青少年、教員等を対象 に、ダンス創作の基礎 的理論や創作方法の習 得を目的に講習会を実 施。	講師やプログラムの検 討においては、ダンス 専門部のニーズや時代 からの要請を踏まえ、 見直しを行っている。	478人	2019年8月7日～8 日	青少年センター(紅 葉坂ホール)	講習内容アンケートで、 「大変良かった」「良 かった」が平均で93.3% であり、高い満足度を得 ている。	重点施策 5
(再)学校演劇交 流フェスティバ ル	学校演劇における創作 のスキルアップを目的 にした試演とワーク ショップを実施した。	演劇シーンの第一線で 活躍する劇作家、演出 家等を講師に活用し た。	中学生、高校生、一 般253人	2019年9月22日	青少年センター	アンケートによると、 「とても良い」「良い」 が90.3%と高く評価され ている。	重点施策 5
(再)演劇指導者 のための実践的 ワークショップ	中学校・高等学校の演 劇部指導者、演劇部等 の指導的立場にある生 徒等を対象に、音響、照 明、舞台のノウハウを学 ぶための実践的なワーク ショップを実施した。	中・高とも発表会(県 大会)の会場である紅 葉坂ホールの機材、道 具を実際に使用し、舞 台、照明、音響の基礎 的な部分から実践的な 内容の講習を行った。	28人	2020年1月13日	青少年センター	アンケートでは、道具の 使い方やホールの機器を 使用できたことに評価が あったほか、時間が足り ないとの声もあった。	重点施策 5
(再)青少年の舞 台表現のための スキルアップクラ ス	中高生向けの3つの先 端的なワークショップ プログラム(映像、舞 台美術、ダンス振付) を実施し、青少年によ る演劇・ダンスの創造 活動の発展向上に資す る。		新型コロナウイルス 感染症拡大防止のため 中止	—	—	—	重点施策 5
(再)県民ホール 本館における人 材育成事業	劇場運営のマネージメ ントや公演制作に関す る講座や現場実習を開 催した。	講座では、公共文化施 設において障がいを持 つ方への的確な対応方 法について講義を行 い、好評を得た。	32人	2019年9月～2020年 2月	県民ホール本館	—	重点施策 5
(再)KAAT神奈川 芸術劇場におけ る人材育成事業	舞台技術専門スタッフ を対象にした実践的な 講座を行うとともに、 劇場運営や舞台技術を に関心のある学生等を インターンとして受け 入れ、業務体験等を実 施した。	「人をつくる」創造型 劇場として、若手演出 家、舞台技術専門ス タッフ、大学生など、 劇場での舞台芸術に関 わる多様なジャンルの 人材を育成に寄与し た。	34人	2019年7月～2020年 3月	KAAT神奈川芸術劇場	—	重点施策 5
利用者満足度調 査	指定管理者に対して、 県の行政管理局が定め る「指定管理者制度の 運用に関する指針」等 に基づき、協定書に定 めた利用者満足度調査 を実施した。	—	—	年2回	—	—	
行政によるモニ タリング	指定管理者に対して、 県の行政管理局が定め る「指定管理者制度の 運用に関する指針」等 に基づくモニタリング を実施した。	—	—	月例報告書の確認： 毎月 モニタリング結果報 告書作成：年1回	—	—	
神奈川県立県民 ホール及び音楽 堂指定管理業務 実績評価委員会	3館一体による効率的 な運営が行われている ため、チェックするた め、公募委員を含む6 名により指定管理者が 行う自主事業公演のモ ニタリングを行い、そ の内容について年1回 会議を開催した。	—	—	2020年8月8日 モニタリング：18公 演(のべ34回)	県民ホール本館 セ ントラルルーム	—	

2019（令和元）年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(3) 情報通信技術の活用							
(再)マグカル・ドット・ネット	県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」において、県内のイベント情報をリアルタイムで発信するほか、文化芸術に関する記事を作成し、ツイッター等のSNSにおいても情報発信を行った。	イベント掲載数を増やしたほか、特集やコラムの作成を行い、内容の充実を図った。訪日外国人向け特集記事を作成し、多言語翻訳を行うとともに、国内外向けのインターネット広告を通年で展開した。	PV（ページビュー）数 398,712	通年	—	—	重点施策 4、5
(再)神奈川近代文学館におけるホームページ、SNSの活用	SNSの積極的な活用やコミックとのコラボレーションによりホームページ利用のアクセス数を高く維持し、広く広報周知活動を行った。	展覧会紹介、資料紹介等に加え、誕生日命日などにもSNSで発信するなど、日々新しい話題を提供している。	ホームページアクセス数：260,988件 上記のうち、蔵書検索アクセス数：74,701件	通年	神奈川近代文学館 ホームページ及びSNS	Twitterフォロワー数が647人増となった。	重点施策 5
(再)県立近代美術館における情報提供の実施	プレスリリースを報道関係者にメールで配信した。また、Twitter上で美術館の日々の活動を発信した。	各々の電子媒体によって、対象に合わせた内容を発信した。	メール配信数：9回 Twitter発信数：227回	通年	—	—	重点施策 5
(再)県立歴史博物館における情報提供の実施	HP（Twitter含む）を活用した情報提供や刊行物、マスメディア（紙・電波媒体、ネット）による情報発信を行った。	限られた予算の中、無料掲載可能な県の広報媒体や外部WEB媒体への広報依頼、新聞社等マスコミの取材を誘引するためのきめ細やかな情報の提供に努めた。	794件 【内訳】 Twitter：44件 特別展等チラシ・ポスター：6件 催し物のお知らせ：2件 その他：442件	通年	—	—	重点施策 5
神奈川近代文学館における所蔵資料のデータベース化	所蔵資料（図書、雑誌、特別資料）のデータベース化は、利用者の利便性向上のために重要であることから、当年度もインターネット公開を進めた。	独自の入力項目等により、近代文学の専門館としてのデータ水準を維持している。	特別資料検索利用登録者：124人 （累計：2,269人）	通年	神奈川近代文学館	本年度の図書、雑誌、特別資料を合わせた電算化入力件数は18,622冊（件）となり、累計は1,229,356冊（件）となった。特別資料（原稿、自筆資料、書簡など）に関しては、累計約22万8千点のデータがインターネットで検索可能となった。	
(再)県立金沢文庫における情報提供の強化	金沢文庫が管理する国宝「金沢文庫文書」の画像を、PCやスマートフォンで検索・閲覧できるデータベースを公開した。	古文書の表と裏の両面を高精細画像で公開し、画像どおりの行取りで活字化した本文を表示した。	アクセス件数：878件	通年	—	—	
県立金沢文庫における「国宝金沢文庫文書データベース」の公開	金沢文庫が管理する国宝「金沢文庫文書」の画像を、PCやスマートフォンで検索・閲覧できるデータベースを公開した。	古文書の表と裏の両面を高精細画像で公開し、画像どおりの行取りで活字化した本文を表示した。	アクセス件数：878件	通年	—	—	
県立近代美術館における収蔵資料等のアーカイブ事業	開館以来の活動により蓄積された貴重な記録資料の整理・保存並びに提供ができる環境を整備した。	アーカイブ化した資料はインターネット上で公開を行っている。	公開件数：1237件	通年	—	—	
県立歴史博物館における博物館情報システムデータ整備	収蔵資料のデータベース化を推進した。	—	登録件数：11,193件	通年	—	—	

かながわ文化芸術振興計画にかかわる2019(平成31・令和元)年度の実績

2019(令和元)年度実績							重点施策 の該当
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	重点施策
(再)Cultural Programs in Kanagawa 2019	国内観光客及び訪日観光客向けに、県内の魅力的な文化芸術コンテンツやラグビーワールドカップ2019 TM の特集を掲載した日英併記の冊子を作成した。	ラグビーワールドカップ2019 TM の特集を入れることで、ラグビーファンの目にも留まりやすくなった。 また、旅行者が持ち帰りたいような、表紙に厚く高級感のある紙を使用した。	発行部数3万部	8月(年1回発行)	空港、駅、外国人向け観光案内所、ホテル等で配布	—	重点施策 4、5
(再)イベントカレンダー	県内の文化イベント情報をカレンダー形式で掲載する日英併記の情報誌「マグル・イベントカレンダー」を作成した。	毎月特集ページを設け、県事業のPRを行った。	発行部数56万部(各号14万部)	年4回発行 5～7月号 8～10月号 11～1月号 2～4月号	関東圏の文化施設、駅、劇場、ホテル等で配布	—	重点施策 4、5
外国籍県民情報提供推進事業	①多言語情報紙「こんにちはは神奈川」を作成した。 ②多言語による県民情報を提供した。	記事や発行趣旨に合ったイラストを盛り込み、より適切な表現になるよう多言語の翻訳チェックを行い、外国籍県民等が手に取りやすい紙面の作成をしている。	6言語(日本語併記) 1回当たり20,300部発行 A4版4ページ。	①8月、11月、3月の年3回の発行 ②年間随時	①県機関、市町村、都道府県、国際関係協会・センター、医療機関等約800箇所 ②ホームページ上	—	重点施策 4、5
(再)外国語観光情報ウェブサイト多言語化・運用管理等業務	外国語観光情報ウェブサイト「Tokyo Day Trip-Kanagawa Travel Info-」から、文化課の「Magcul.net」にリンクを設置している。	「Tokyo Day Trip」と「Magcul.net」の双方が多言語化されているため、言語別にリンク先のURLを切り替えている。	—	通年	—	—	
(4) 文化芸術活動に対する支援の促進							
寄附税制等に関する周知	神奈川県芸術文化財団HPに掲載するほか、賛助会員やその他法人・団体への寄附依頼時にパンフレットにて周知した。	オンライン決済システム「CANPAN」を導入したことで、「音楽堂開館65周年記念寄附」をはじめとする、3館の個別公演・施設運営への寄附・広報媒体への広告出稿など、幅広い支援の働きかけができるようになった。	賛助会員数 法人：51社 個人：15名	通年	—	音楽堂開館65周年記念寄附：50件 広告協力：4社 チケット購入協賛：2社など	
(5) 顕彰の実施							
(再)神奈川文化賞・未来賞表彰事業	神奈川県在住、在職又は神奈川県に深いゆかりのある者で、神奈川の文化の向上発展に尽力し、その功績顕著な個人又は団体に対して「神奈川文化賞」を贈呈した。 2001年度に、神奈川文化賞の第50回を記念し、神奈川の文化の向上発展に貢献することが大いに期待される若い世代に贈呈するために「未来賞」を創設し、贈呈した。	神奈川フィルによる祝賀演奏を実施し、入場無料で一般観覧者を募ることで、県全体として功績を称える雰囲気醸成した。また、県民に対し、文化に触れる機会を提供した。	観覧者1,288人	2019年11月3日	神奈川県民ホール本館	受賞者 神奈川文化賞4人、未来賞2人	